

令和7年度
ヤングケアラー
実態調査報告書

令和8年3月

目次

第1章 調査の概要	1
1 実施方法等	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の対象	1
(3) 調査の方法	1
(4) 調査の期間	1
2 回答の状況	2
3 調査結果の分析等にあって	2
第2章 調査結果の分析	3
1 家庭での生活について	3
(1) 同居家族	3
(2) お世話をしている同居家族	4
(3) 同居家族のお世話の状況	7
(4) お世話をしている児童生徒の状況	11
(5) お世話をしていることについての相談状況	13
2 健康状態と学校での生活について	17
(1) 児童生徒の健康状態	17
(2) 児童生徒の悩み	18
(3) 児童生徒の学校や放課後の過ごし方	20
3 ヤングケアラーの認知度	26
(1) ヤングケアラーの認知状況	26
(2) ヤングケアラーの自認状況	28
第3章 意見等	29
(1) 小学5年生	29
(2) 中学2年生	52

第1章 調査の概要

I 実施方法等

(1) 調査の目的

この調査は、児童生徒が家族へのケアの責任や家庭内での負担の重さなどによって、学業や友人関係など生活に影響が出てしまうことのないよう、そうした状況にある児童生徒（ヤングケアラー）を早期に発見し、支援につなげる方策を確保していくため、児童生徒の生活の実態を調査して分析を行うことを目的としています。

図表1-1 ヤングケアラーの概念



出所：こども家庭庁

(2) 調査の対象

市内小・中学校に在籍する市内在住の小学5年生及び中学2年生

(3) 調査の方法

Web 調査（各学校を通じて依頼文書を配布し、Web により回答を回収）

(4) 調査の期間

令和7年9月25日～10月8日

2 回答の状況

区 分	対象者数	回答者数	回答率
小学5年生	3,735	3,215	86.1%
中学2年生	4,047	3,397	83.9%

3 調査結果の分析等にあたって

- (1) 選択式回答の比率は、その設問の回答者数を基数（ n ）とし、小数点第2位以下を四捨五入により算出しました。したがって、すべての比率を合計すると100%とならない場合もあります。
- (2) 複数回答を可とする設問についても、すべての比率を合計すると100%を超える場合があります。なお、複数回答の場合は、図表のタイトル名の次に明示し、タイトル名の次に明示がないものは、単数回答となります。
- (3) 一部の設問においては、令和4年度に石川県が実施した「ヤングケアラーの実態に関する調査」（以下、「令和4年度石川県調査」といいます。）の結果のうち、金沢市の児童生徒（調査の対象は、市内のすべての小学校に在籍する6年生とすべての中学校に在籍する2年生）の回答状況を参考掲載しています。
- (4) 記述式回答や「その他」に記述されていた文章については、誤字等の軽微な修正のほか、読みやすさなどに配慮し、意味を損なわない程度に省略した場合があります。

第2章 調査結果の分析

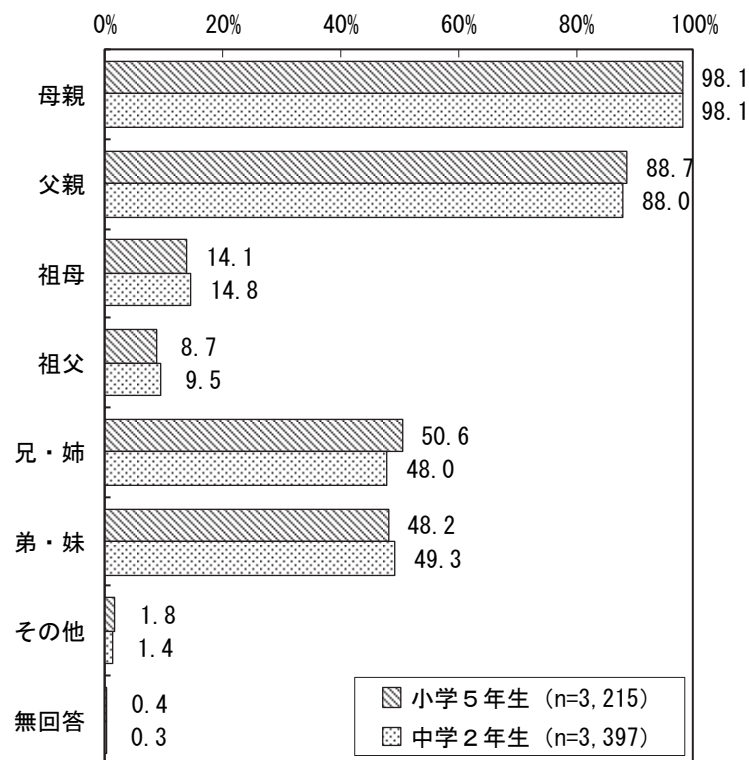
1 家庭での生活について

(1) 同居家族

回答した児童生徒の同居家族は、小学5年生、中学2年生とも、「母親」が98.1%、「父親」が90%弱を占め、「兄・姉」と「弟・妹」は50%程度、「祖母」と「祖父」は10%程度となっています。

なお、「その他」として、「曾祖母」、「曾祖父」、「おば」、「おじ」、「いところ」などの「親戚」のほか、「施設の人」、「寮生」などの回答がありました。

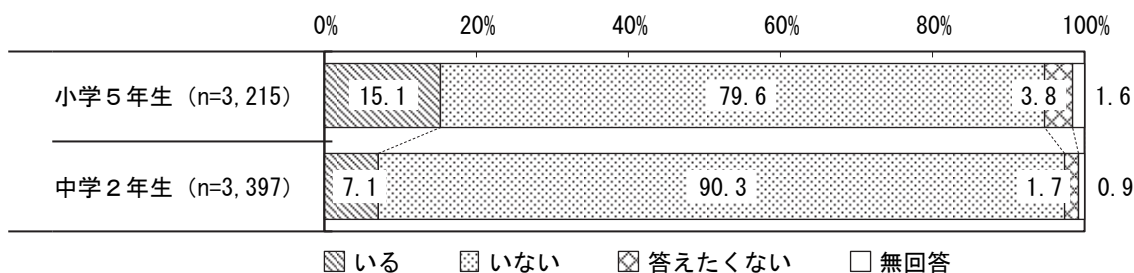
図表2-1 同居家族（複数回答）



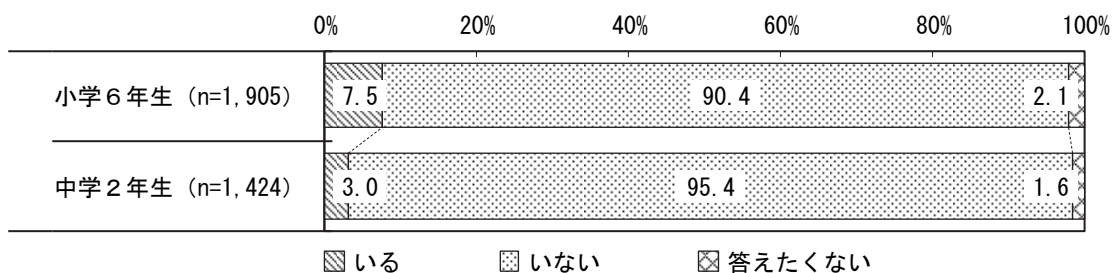
(2) お世話をしている同居家族

同居する家族の中に、回答した児童生徒がお世話をしている家族がいるかたずねたところ、「いる」は小学5年生で15.1%、中学2年生で7.1%となっています。なお、「答えたくない」が小学5年生で3.8%、中学2年生で1.7%とわずかにありました。

図表2-2 お世話をしている家族がいるか



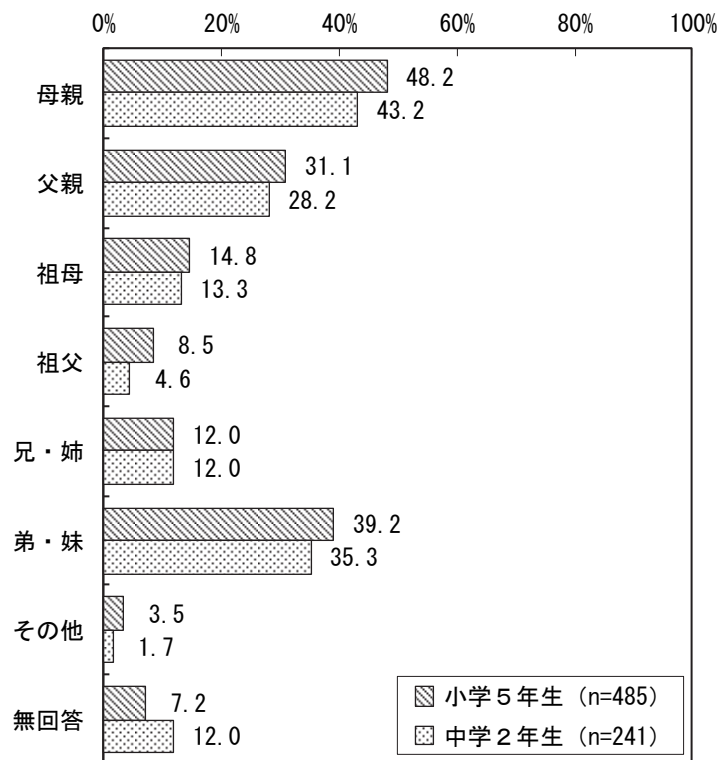
【参考】 お世話をしている家族がいるか (令和4年度石川県調査)



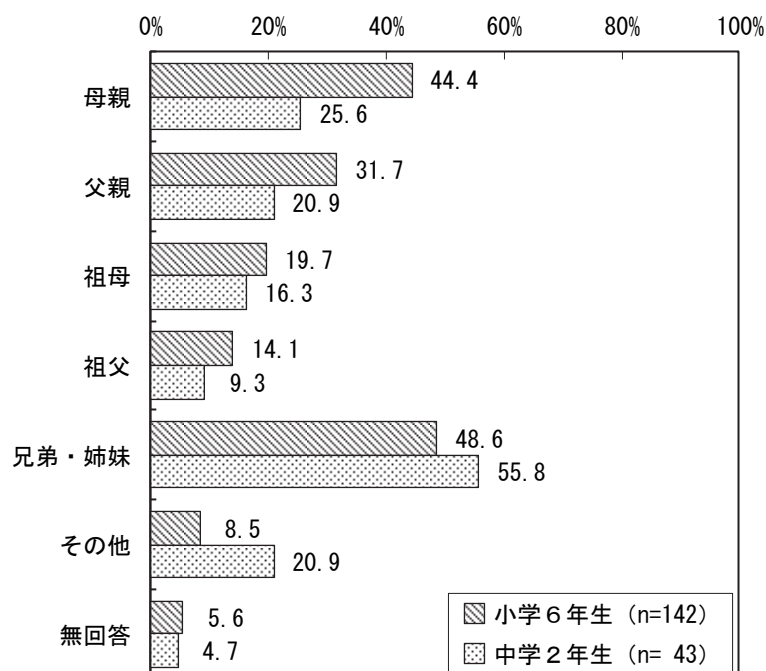
「いる」と回答した児童生徒に、お世話をしている家族はだれかたずねたところ、「母親」が小学5年生で48.2%、中学2年生で43.2%と最も高く、次いで、「弟・妹」が小学5年生で39.2%、中学2年生で35.3%となっています。

なお、「その他」として、「おば」、「おじ」、「いっこ」、「赤ちゃん」などの回答がありました。

図表2-3 お世話をしている家族（複数回答）



【参考】お世話をしている家族（令和4年度石川県調査）

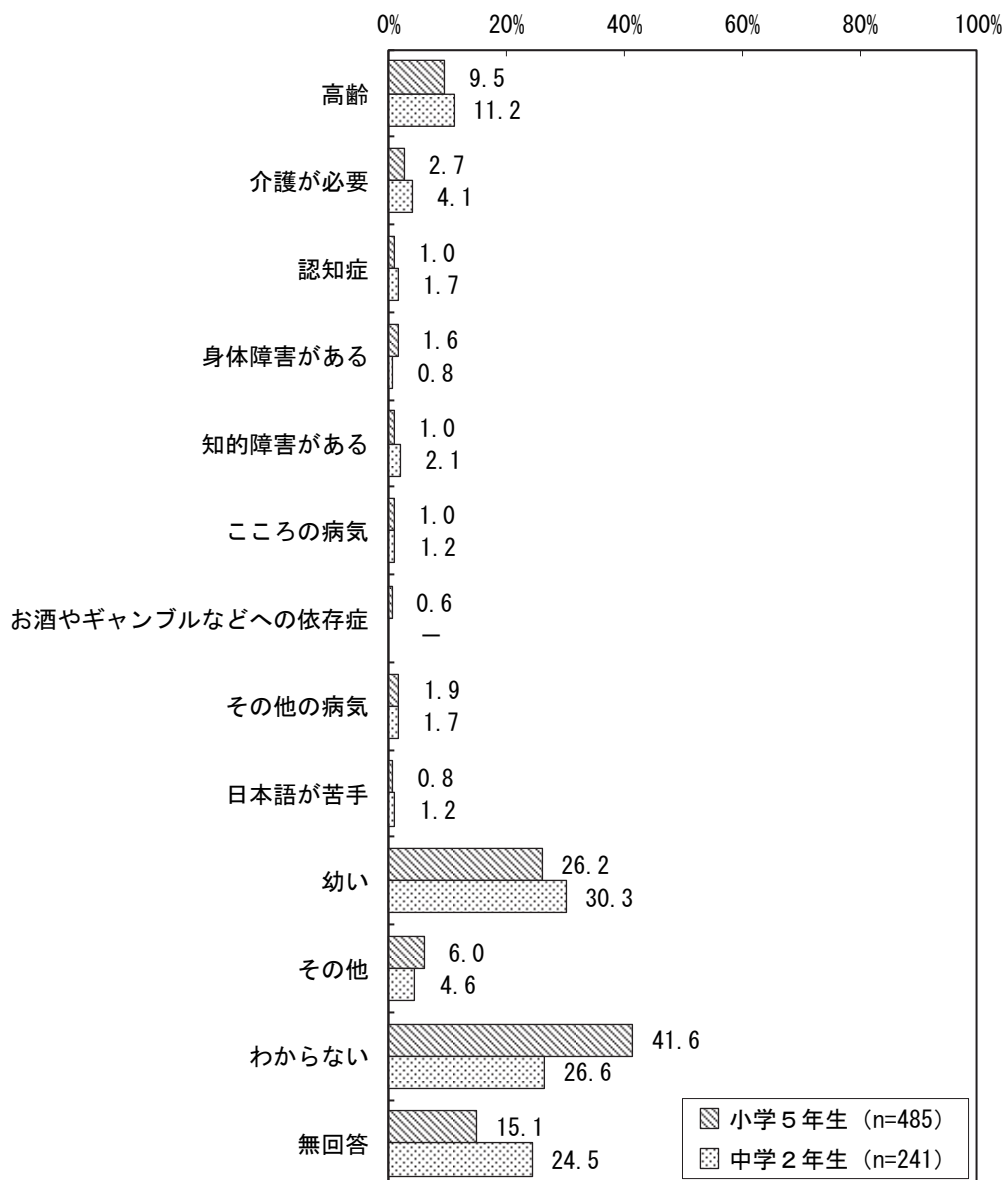


お世話をしている家族の状態については、「わからない」などを除く具体的な選択項目の中では、「若い」が小学5年生で26.2%、中学2年生で30.3%と最も高いほかは、概ね10%未満となっています。

なお、「その他の病気」については、「がん」、「心臓の病気」、「足の病気」、「難病」、「腰が痛い」などの回答がありました。

また、「その他」として、「骨折」、「風邪」、「自分でできない」、「しゃべれない」、「忙しい」、「普通」、「お手伝い」などの回答がありました。

図表2-4 お世話をしている家族の状態（複数回答）

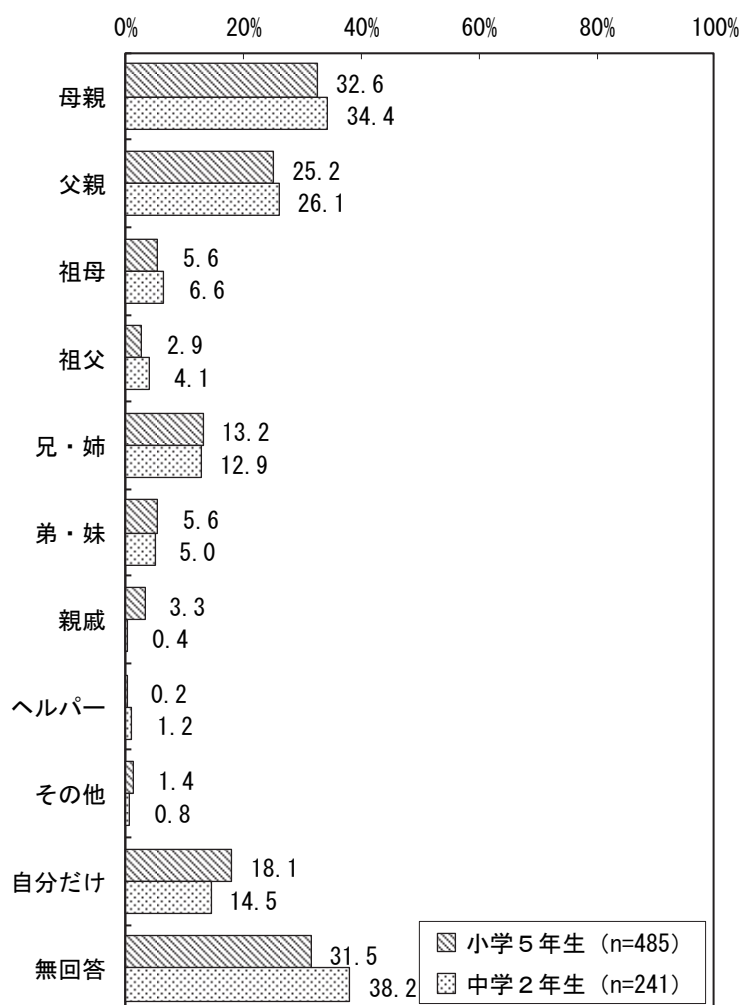


(3) 同居家族のお世話の状況

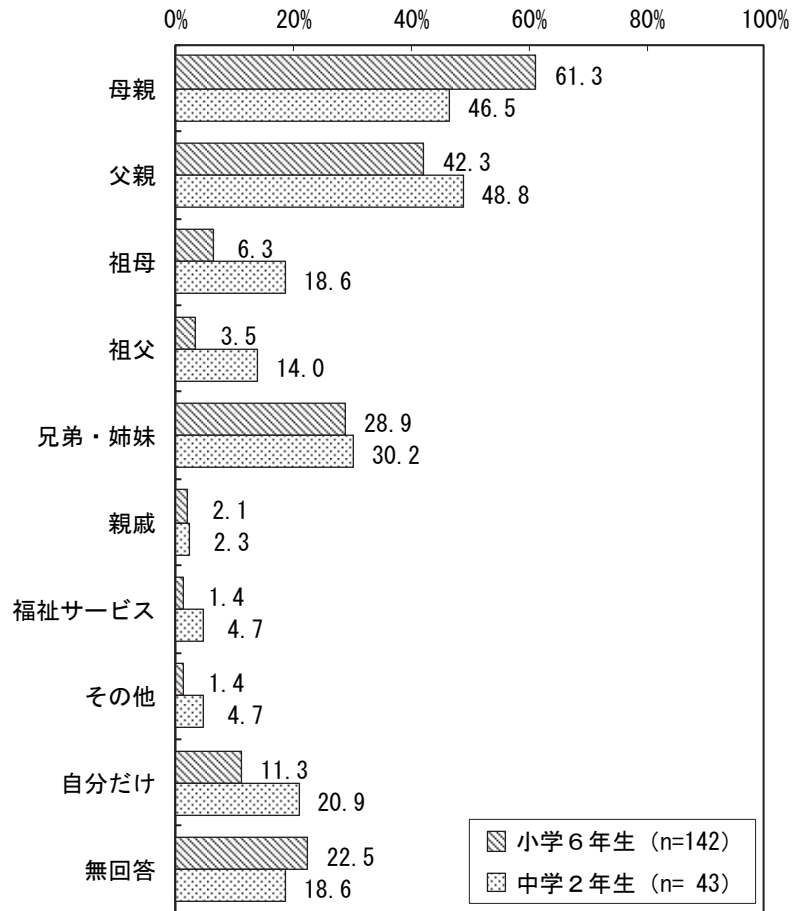
家族のお世話をだれかといっしょにしているかたずねたところ、「母親」が小学5年生で32.6%、中学2年生で34.4%と最も高く、次いで、「父親」が小学5年生で25.2%、中学2年生で26.1%となっており、「自分だけ」は小学5年生で18.1%、中学2年生で14.5%となっています。

なお、「その他」として、「介護施設の人」、「訪問看護の人」、「母親の彼氏」などの回答がありました。

図表2-5 家族のお世話をだれかといっしょにしているか（複数回答）



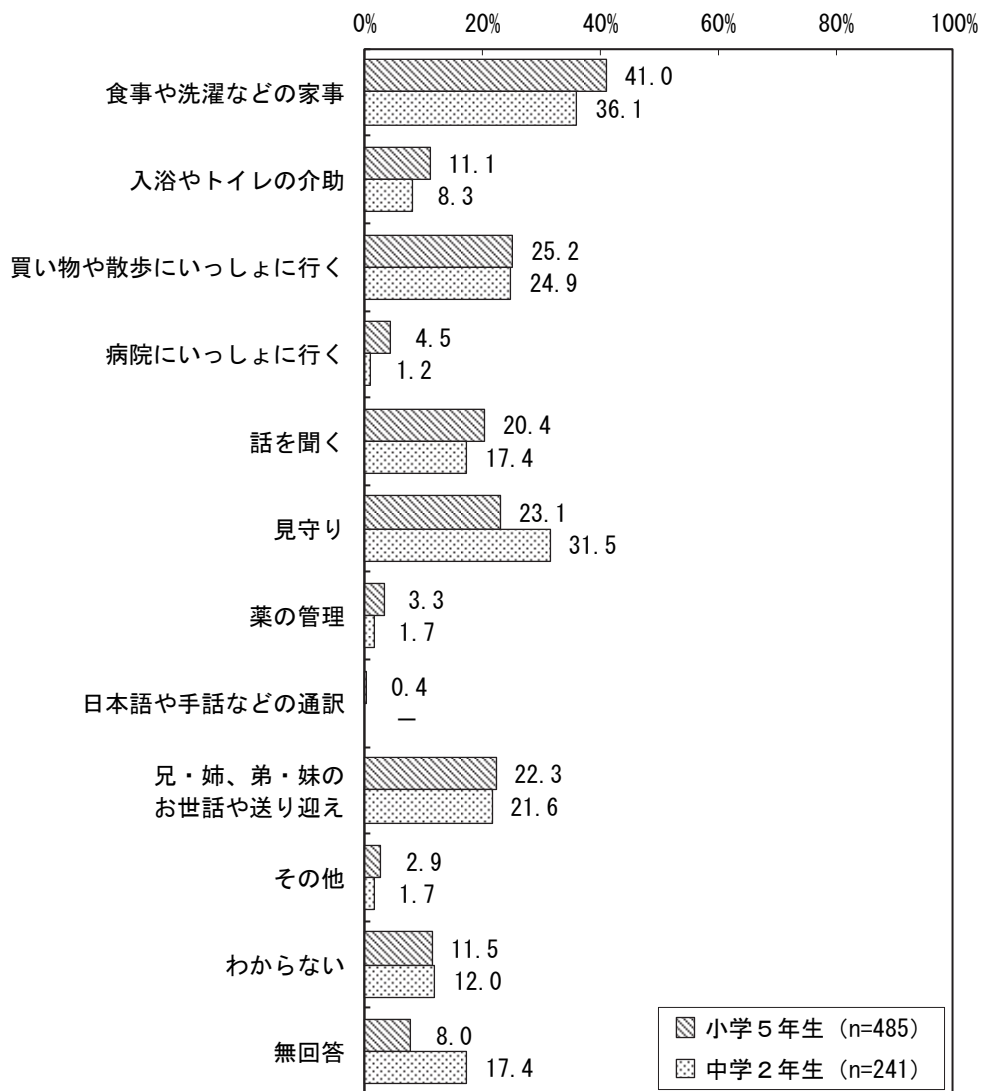
【参考】 家族のお世話をだれかといっしょにしているか（令和4年度石川県調査）



どのようなお世話をしているかたずねたところ、「食事や洗濯などの家事」が小学5年生で41.0%、中学2年生で36.1%と最も高いほか「見守り」、「買い物や散歩にいっしょに行く」、「兄・姉、弟・妹のお世話や送り迎え」が小学5年生、中学2年生とも、20%台となっています。

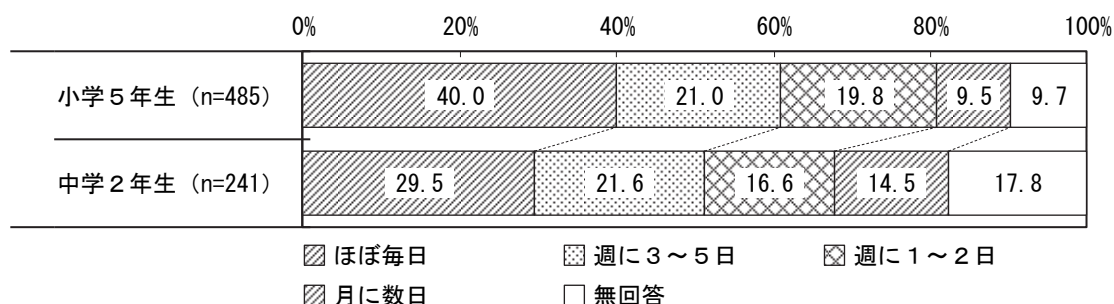
なお、「その他」として、「おつかい」、「看病」、「痛いところをさする」、「着替え」、「爪切り」、「大きな荷物を運ぶ」などの回答がありました。

図表2-6 家族のお世話の内容（複数回答）

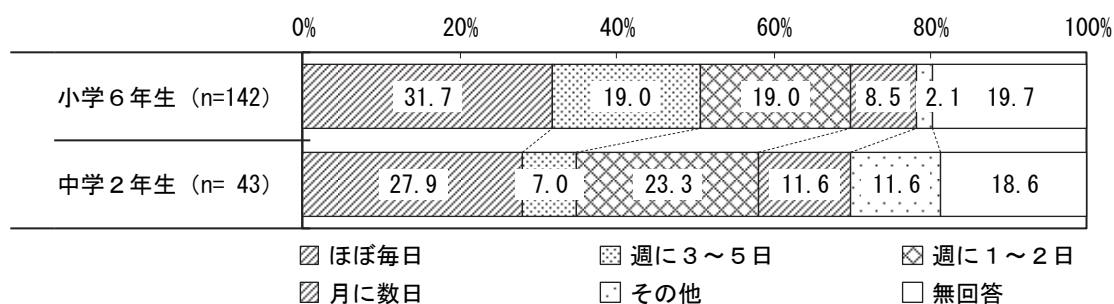


家族のお世話の頻度については、「ほぼ毎日」が小学5年生で40.0%、中学2年生で29.5%と最も高く、「週に3～5日」が小学5年生で21.0%、中学2年生で21.6%と、「週3日以上」は小学5年生で61.0%、中学2年生で51.1%となっています。

図表2-7 家族のお世話の頻度

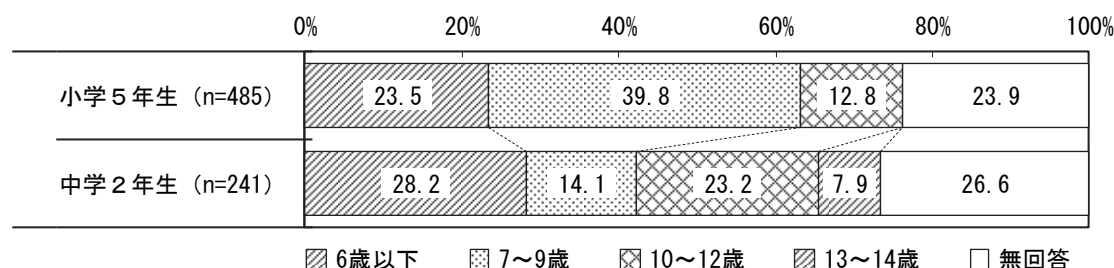


【参考】家族のお世話の頻度（令和4年度石川県調査）



また、児童生徒が何歳のころから家族のお世話をしているのかについては、小学5年生では「7～9歳」(39.8%)、中学2年生では「6歳以下」(28.2%)が最も高く、最近(小学5年生は「10～12歳」、中学2年生は「13～14歳」)始めた割合は高くない状況です。

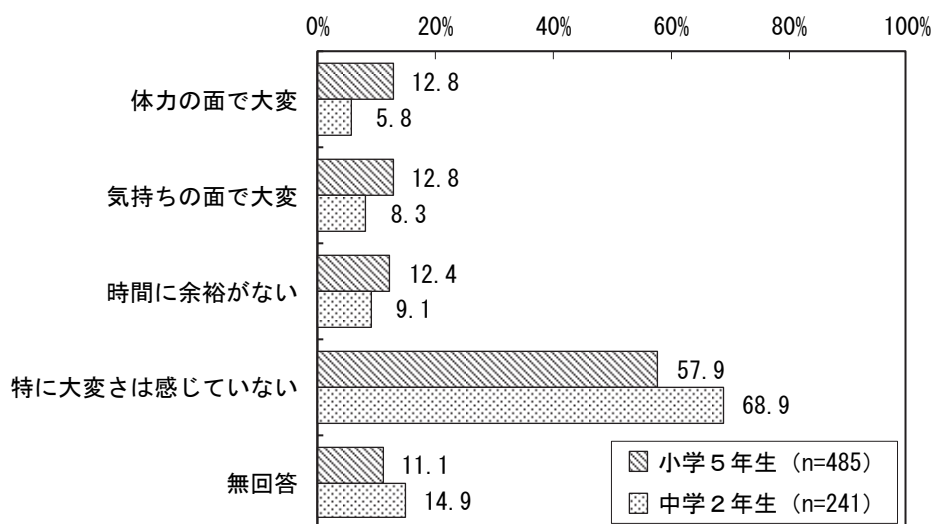
図表2-8 いつごろから家族のお世話をしているか



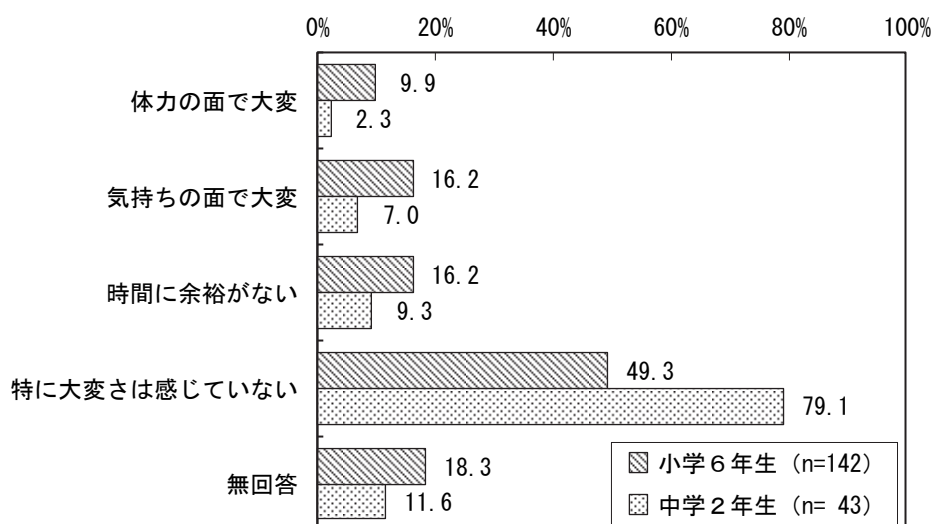
(4) お世話をしている児童生徒の状況

家族のお世話をしていることについてどのように感じているかたずねたところ、小学5年生、中学2年生とも、「特に大変さは感じていない」が最も高く、50%以上を占めており、「体力の面で大変」、「気持ちの面で大変」、「時間に余裕がない」のいずれも、小学5年生で10%強、中学2年生で10%弱となっていますが、これらに回答した児童生徒については注視していく必要があると考えられます。

図表2-9 家族のお世話をしていることについてどのように感じているか（複数回答）



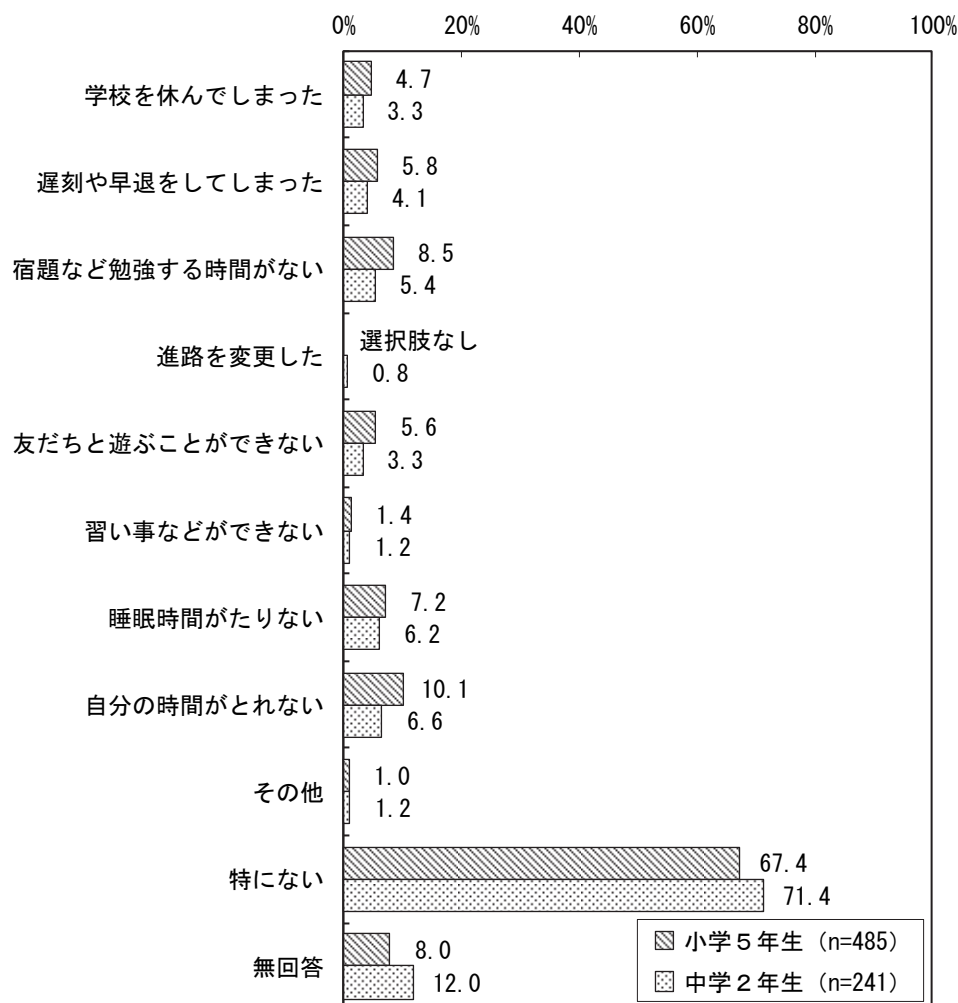
【参考】家族のお世話をしていることについてどのように感じているか(令和4年度石川県調査)



家族のお世話をしていることで、どのような経験をしたことがあるかについても、小学5年生、中学2年生とも、「特にない」が最も高く、60%以上を占めており、これを除く選択項目は、概ね10%以下となっていますが、これらに回答した児童生徒については注視していく必要があると考えられます。

なお、「その他」として、「休ませてくれない」、「ご飯を食べられない」、「ケガをした」、「部活を休むことがある」などの回答がありました。

図表2-10 家族のお世話をしていることで経験したこと（複数回答）

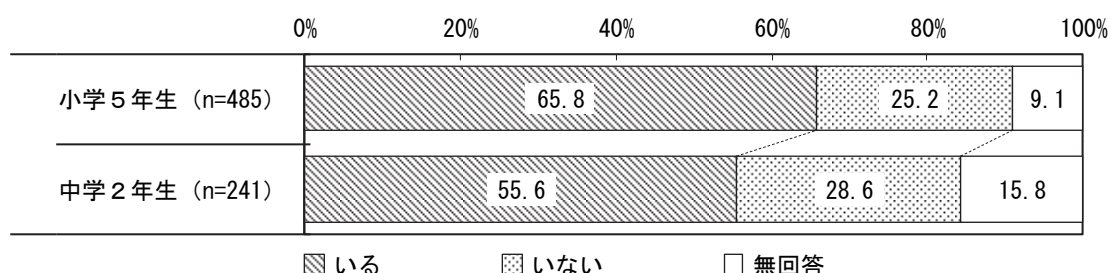


(5) お世話をしていることについての相談状況

お世話をしている家族のことや悩みを聞いてくれる人がいるかたずねたところ、「いる」は小学5年生で65.8%、中学2年生で55.6%と、50%以上を占めています。

なお、聞いてくれる人について具体的にたずねたところ、「母親」、「父親」、「兄・姉」、「祖母」、「祖父」などの「家族」のほか、「先生」、「友だち」、「スクールカウンセラー」などの回答がありました。

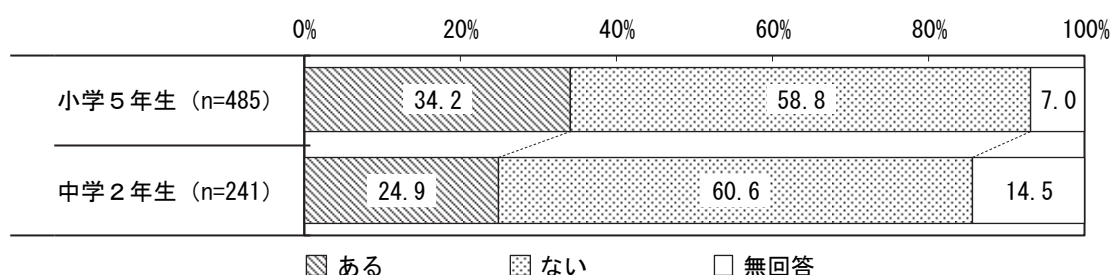
図表2-11 家族のお世話をしていることについて聞いてくれる人



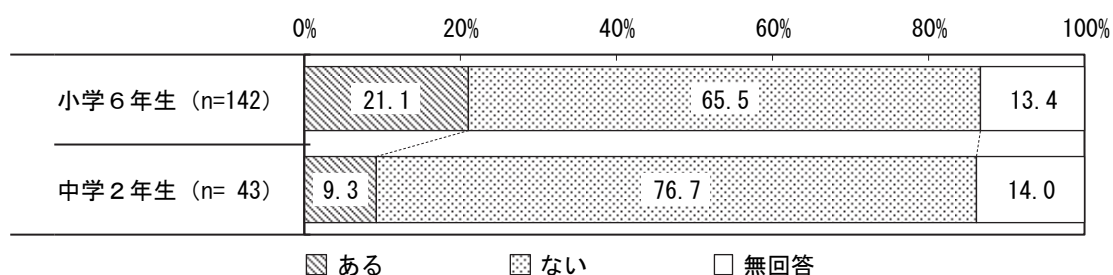
続いて、お世話をしている家族のことや悩みをだれかに相談したことがあるかたずねたところ、「ある」は小学5年生で34.2%、中学2年生で24.9%となっています。

なお、相談した人について具体的にたずねたところ、「母親」、「父親」、「兄・姉」、「祖母」、「祖父」などの「家族」のほか、「先生」、「友だち」、「スクールカウンセラー」などの回答がありました。

図表2-12 家族のお世話をしていることについてだれかに相談したことがあるか



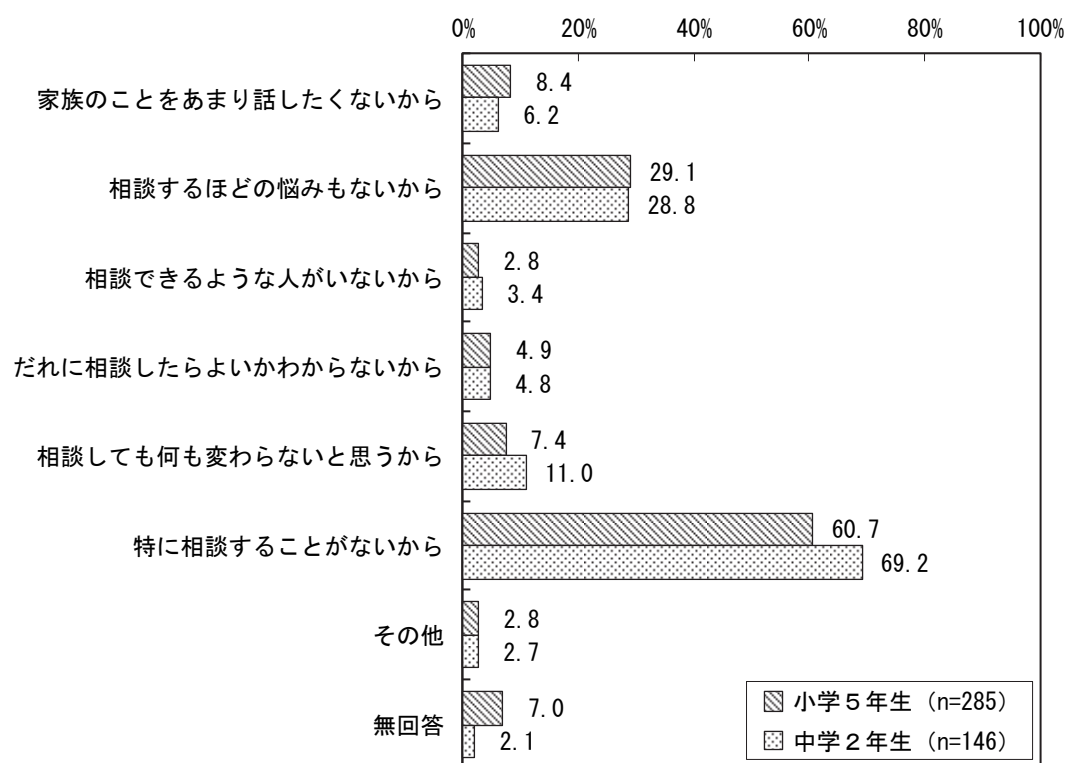
【参考】家族のお世話をしていることについてだれかに相談したことがあるか (令和4年度石川県調査)



前問で「ない」と回答した児童生徒に、その理由をたずねたところ、「特に相談することがないから」が小学5年生で60.7%、中学2年生で69.2%と最も高く、「相談するほどの悩みもないから」が小学5年生、中学2年生とも、30%弱となっています。このほか、「家族のことをあまり話したくないから」や「相談できるような人がいないから」、「だれに相談したらよいかわからないから」など、概ね10%以下となっていますが、これらに回答した児童生徒については注視していく必要があると考えられます。

なお、「その他」として、「だれにも教えたくないから」、「こんなことあったんだと思われてしまうのが嫌だから」、「自分でできるから」、「ちょっとしたお手伝いみたいな感じだから」、「相談したい人がいなくなったから」などの回答がありました。

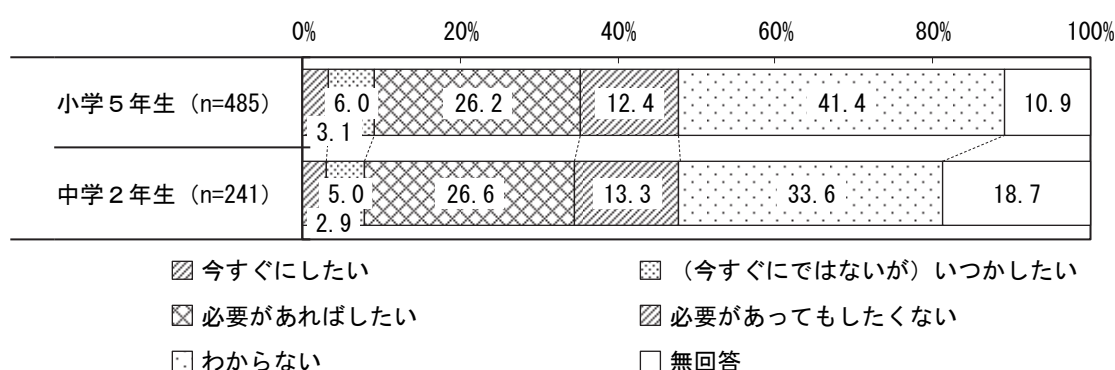
図表2-13 だれかに相談したことがない理由（複数回答）



今後、お世話をしている家族のことや悩みについて相談したいかたずねたところ、「今すぐしたい」は小学5年生で3.1%、中学2年生で2.9%となっています。これに、「(今すぐにはではないが)いつかしたい」と「必要があればしたい」を合わせた《相談したい》は小学5年生で35.3%、中学2年生で34.5%ある一方、「必要があってもしたくない」は小学5年生で12.4%、中学2年生で13.3%となっています。

「必要があってもしたくない」と思うことのないよう、また、そうした児童生徒が《相談したい》と思ったときに円滑に相談につながるよう、相談先の周知や相談体制の充実を図る必要があります。

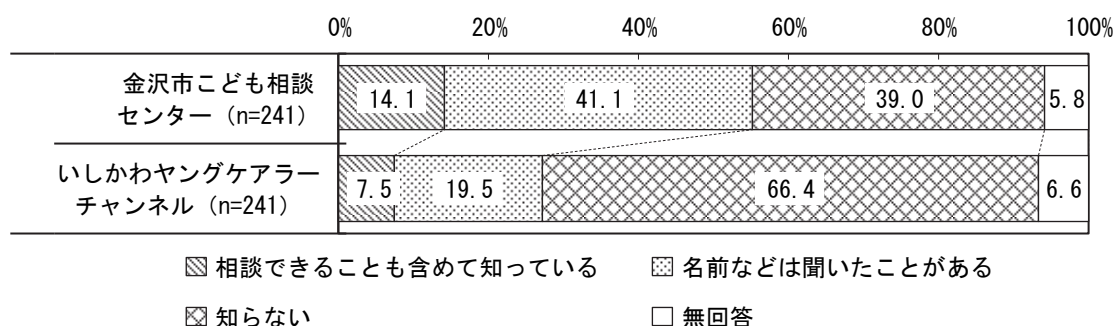
図表2-14 家族のお世話をしていることについて今後相談したいか



なお、お世話をしている家族のことや悩みについては、在籍する学校のほか、「金沢市こども相談センター」や「いしかわヤングケアラーチャンネル」(LINE)でも相談を受け付けています。

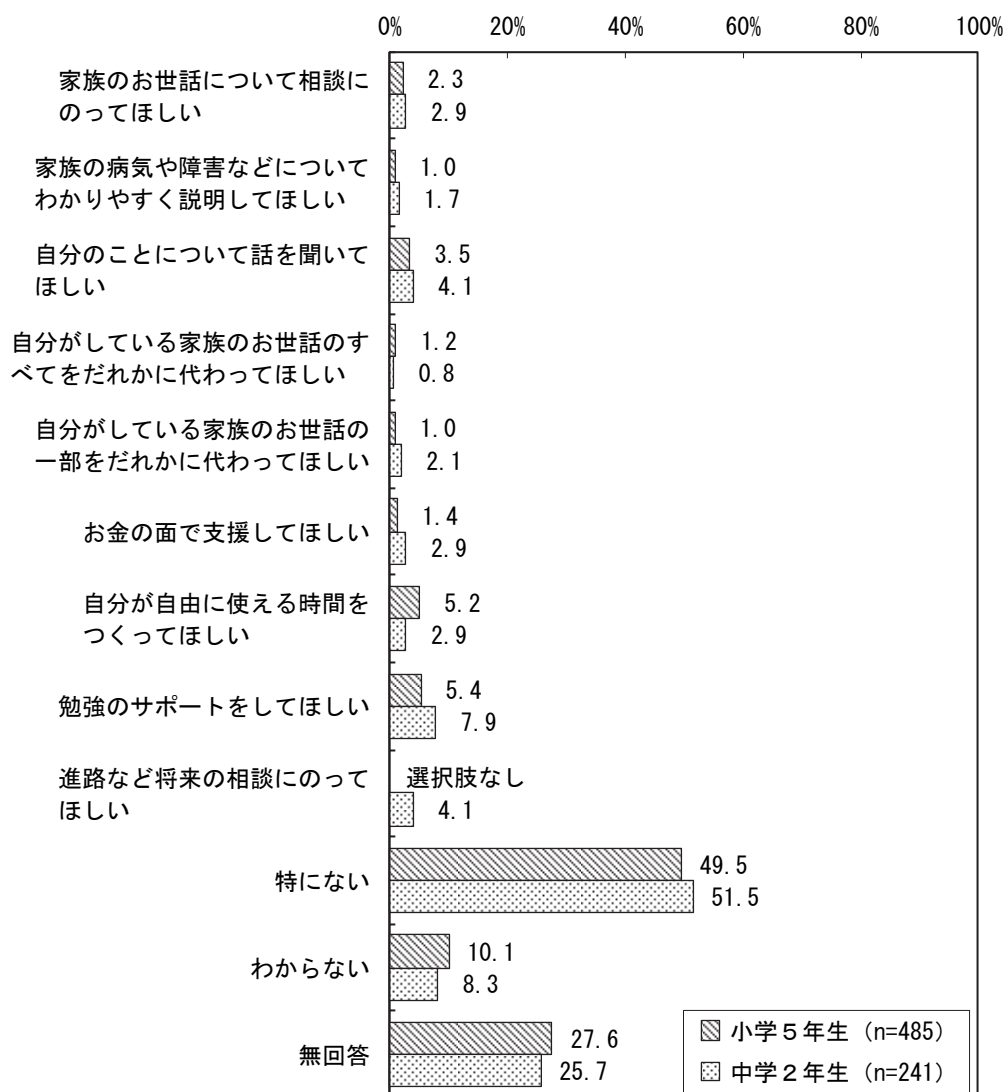
そこで、中学2年生に対し、①「金沢市こども相談センター」や②「いしかわヤングケアラーチャンネル」について知っているかたずねたところ、「相談できることも含めて知っている」は①が14.1%、②が7.5%にとどまっています。

図表2-15 家族のお世話をしていることについての相談先の認知度 (中学2年生)



家族のお世話をしていることで、学校やまわりの大人にしてもらいたいこととしては、小学5年生、中学2年生とも、「特にない」が最も高く、50%程度を占めており、これを除く具体的な選択項目は、すべて10%以下となっていますが、これらに回答した児童生徒については注視していく必要があると考えられます。

図表2-16 学校やまわりの大人にしてもらいたいこと（複数回答）



3 健康状態と学校での生活について

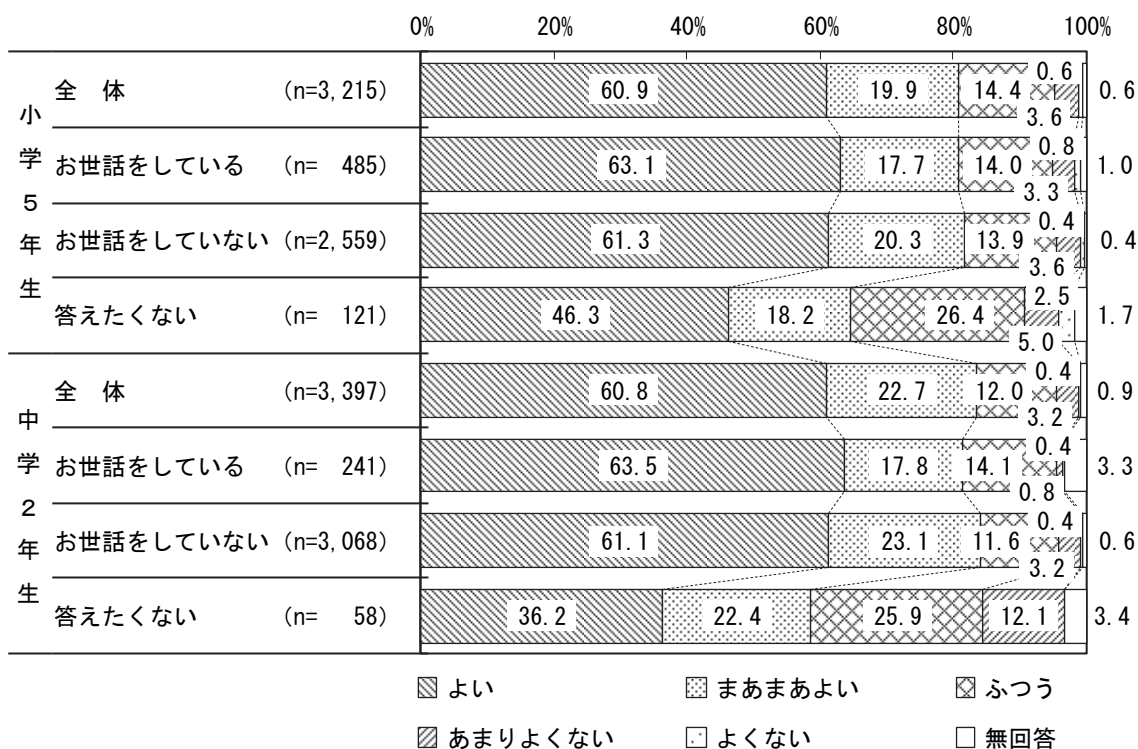
(1) 児童生徒の健康状態

家族のお世話の有無にかかわらず、すべての回答者に、健康状態をたずねたところ、「よい」と「まあよい」を合わせた《よい》は小学5年生で80.8%、中学2年生で83.5%と非常に高く、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた《よくない》は小学5年生で4.2%、中学2年生で3.6%となっています。

これを、家族のお世話の有無別にみると、お世話の有無ではあまり差異は見られませんが、答えたくないとした児童生徒は《よい》が小学5年生で64.5%、中学2年生で58.6%と比較的低くなっています。

家族のお世話の有無について答えたくないとした児童生徒も、注視していく必要があると考えられます。

図表2-17 健康状態



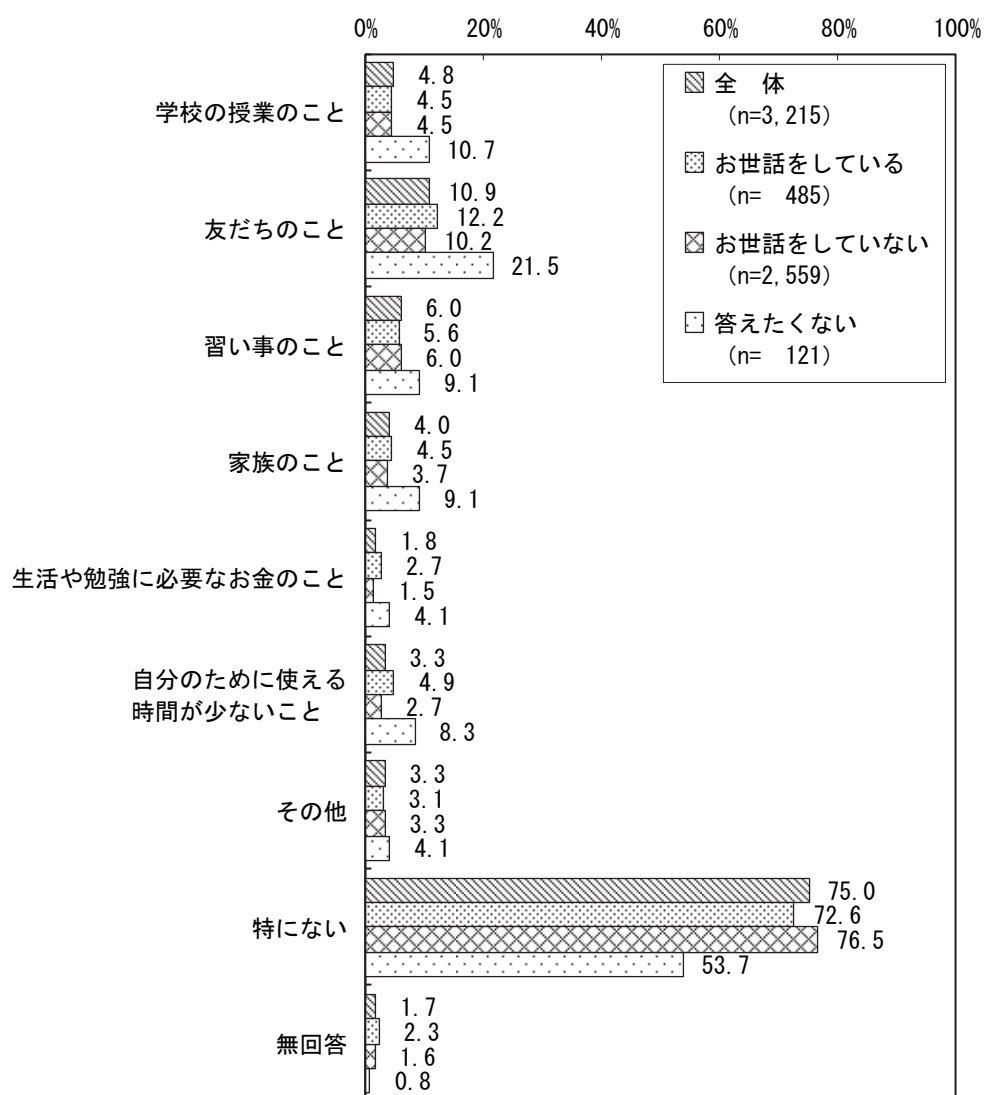
(2) 児童生徒の悩み

悩んでいることがあるかについてもたずねたところ、小学5年生では、「特にない」が75.0%と最も高く、これを除く選択項目は、概ね10%以下となっています。

これを、家族のお世話の有無別にみると、お世話の有無ではあまり差異は見られませんが、答えたくないとした児童は「特にない」が53.7%と比較的低く、「友だちのことが」が21.5%と比較的高くなっています。

なお、「その他」として、「クラスの人のこと」、「苦手な人のこと」、「みんなのペースにあわせることができなくていつも一人になる」、「勉強のこと」、「宿題のこと」、「学校の休み時間や給食」、「習い事で勉強する時間がない」、「学童のこと」、「遊びのこと」、「ゲーム時間が少ない」、「一人でいることが怖い」、「夜寝れない」、「持病が治らない」、「自分の見た目のこと」、「自分の性格のこと」、「悪口」、「差別」などの回答がありました。

図表2-18 悩んでいること（小学5年生、複数回答）

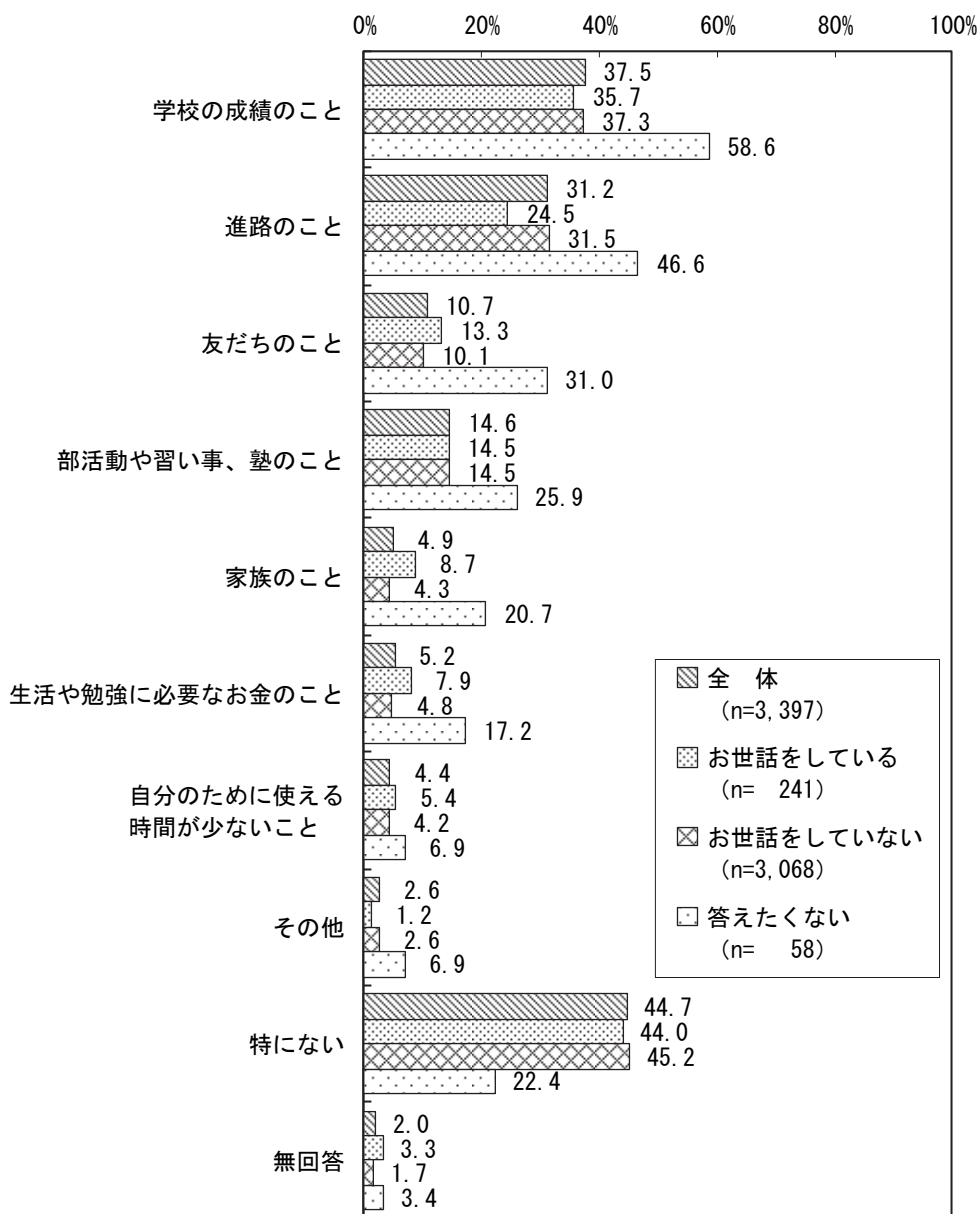


中学2年生でも、「特にない」が44.7%と最も高いものの、次いで、「学校の成績のこと」が37.5%、「進路のこと」が31.2%などとなっています。

これを、家族のお世話の有無別にみると、お世話の有無ではあまり差異は見られませんが、答えたくないとした生徒は「特にない」が22.4%と比較的低く、このほかの多くの具体的な選択項目で比較的高く、最も高い「学校の成績のこと」は58.6%に及んでいます。

なお、「その他」として、「将来の夢のこと」、「教室にいるのがしんどい」、「同じクラスで仲のいい子が休んだときの孤独感」、「やりたいことをできる時間がない」、「スマホの時間が長い」、「アニメを見すぎてしまう、ゲームしすぎてしまう」、「趣味のこと」、「健康状態」、「睡眠不足」、「身長が伸びない」、「お金の問題」、「自分のこと」、「自分の病気の原因がはっきりとわからない」、「ストレス解消法」、「人間関係」などの回答がありました。

図表2-19 悩んでいること（中学2年生、複数回答）

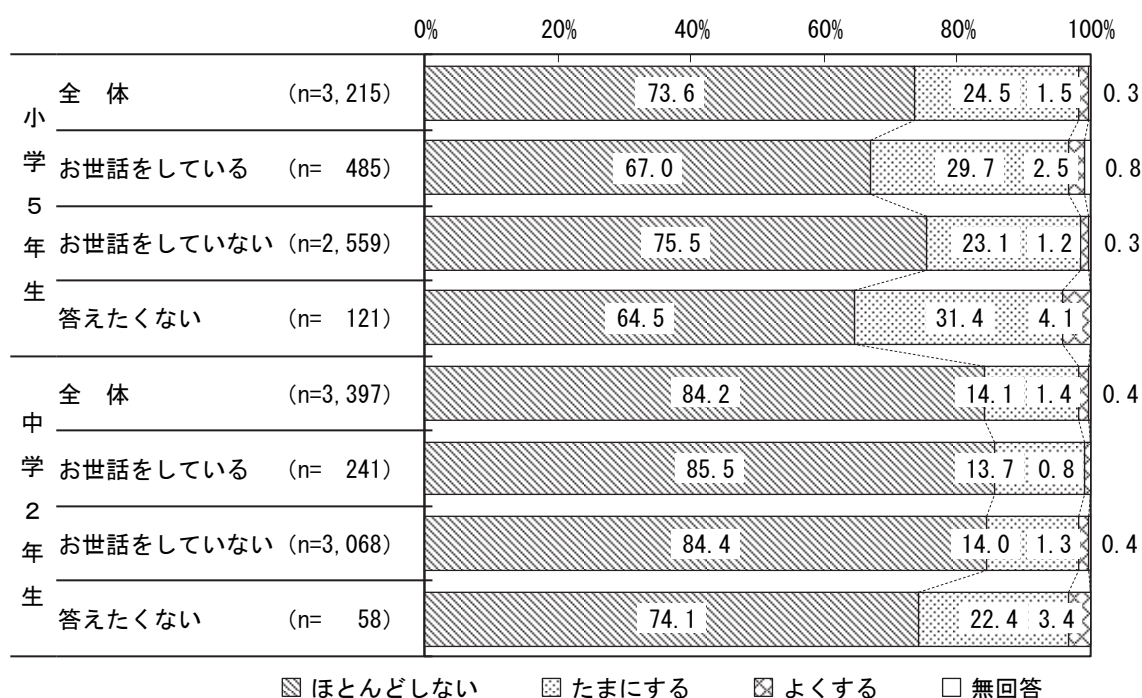


(3) 児童生徒の学校や放課後の過ごし方

学校を欠席したりすることがあるかたずねたところ、「よくする」は小学5年生で1.5%、中学2年生で1.4%、「たまにする」は小学5年生で24.5%、中学2年生で14.1%となっています。

これを、家族のお世話の有無別にみると、「たまにする」は、小学5年生では家族のお世話をしている児童と答えたくないとした児童が比較的高く、中学2年生では答えたくないとした生徒が比較的高くなっています。

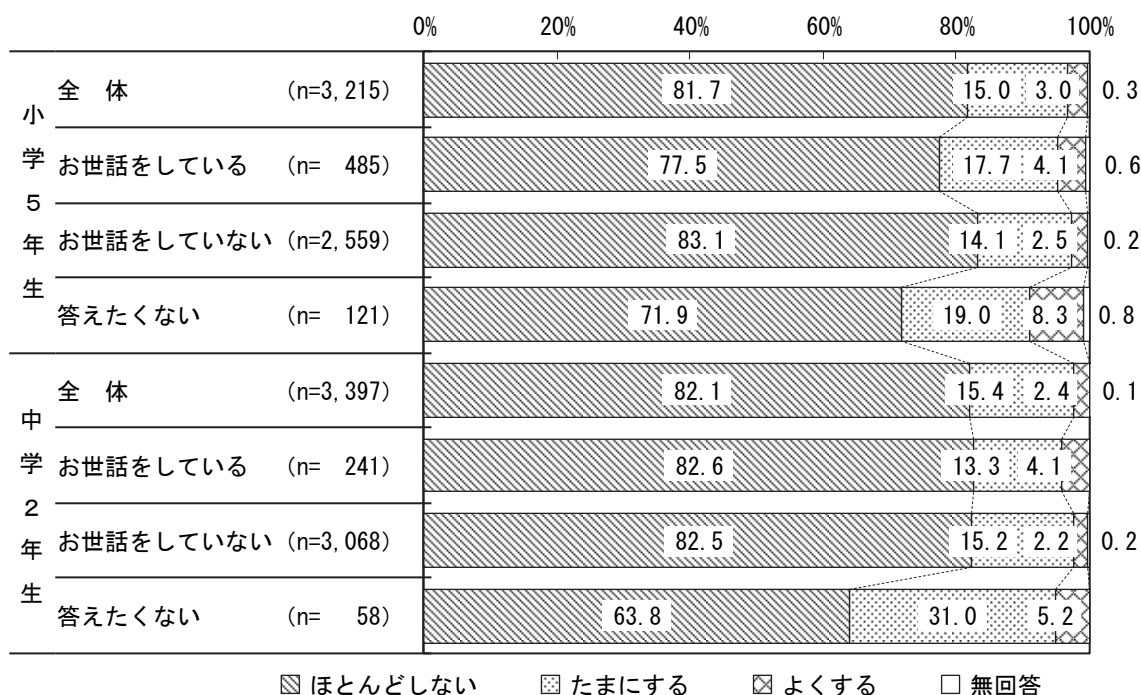
図表2-20 学校を欠席したりすることがあるか



学校を早退や遅刻をすることがあるかたずねたところ、「よくする」は小学5年生で3.0%、中学2年生で2.4%、「たまにする」は小学5年生で15.0%、中学2年生で15.4%となっています。

これを、家族のお世話の有無別にみると、「よくする」は、小学5年生で答えたくないとした児童が比較的高く、「たまにする」は、中学2年生で答えたくないとした生徒が比較的高くなっています。

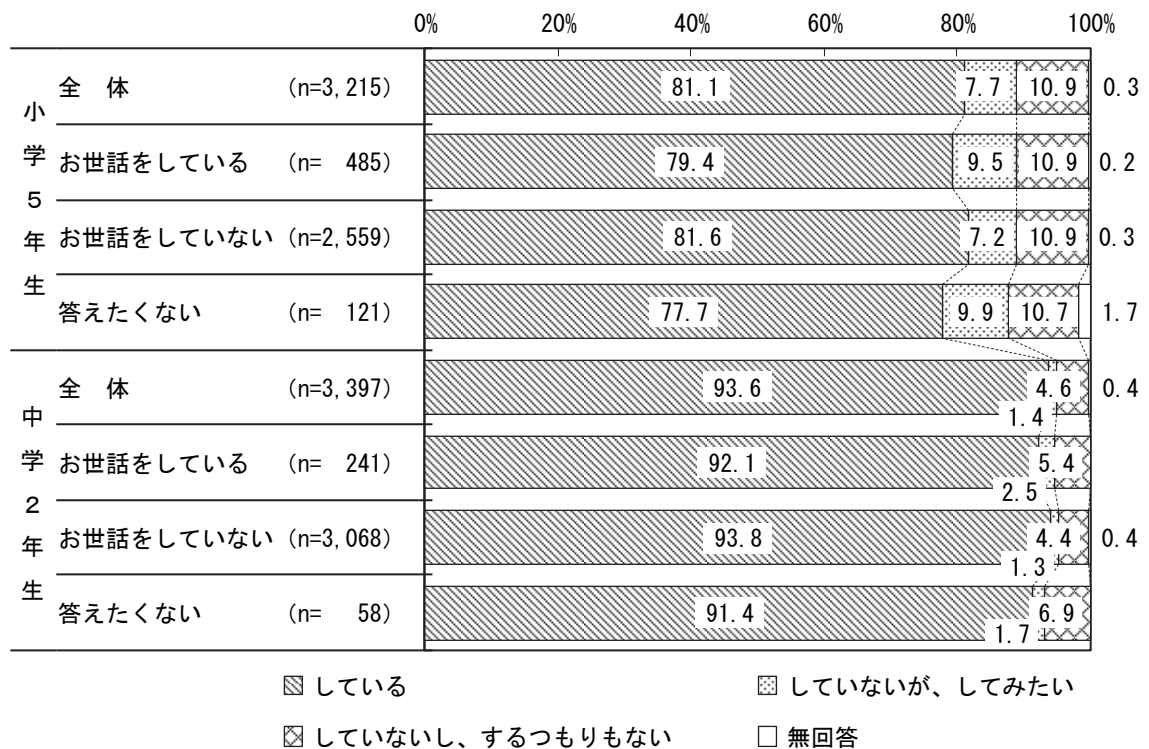
図表2-21 学校を早退や遅刻をすることがあるか



平日の放課後、習い事や部活動（中学2年生のみ）などを行っているかたずねたところ、「している」は小学5年生で81.1%、中学2年生で93.6%、「していないが、してみたい」は小学5年生で7.7%、中学2年生で1.4%となっています。

これを、家族のお世話の有無別にみても、大きな差異はみられません。

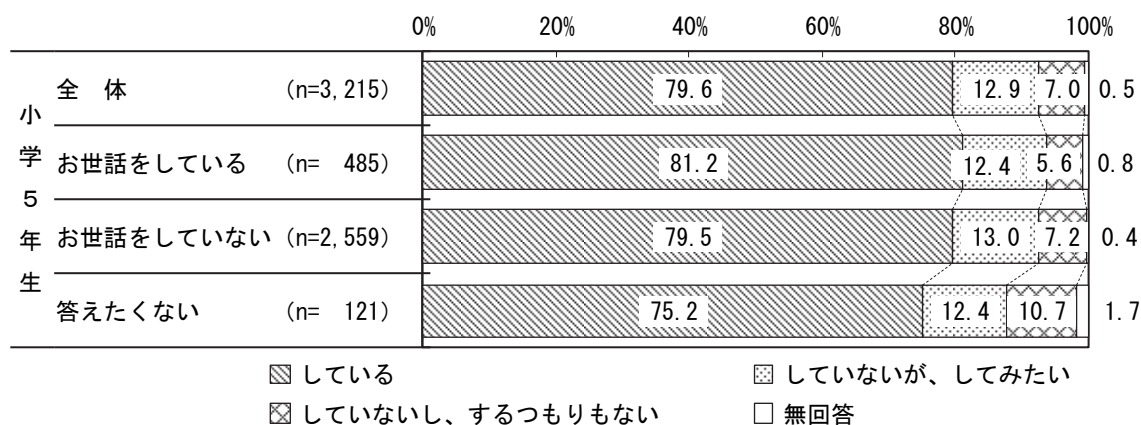
図表2-22 平日の放課後、習い事や部活動などを行っているか



小学5年生に、平日の放課後、友だちと遊んだりしているかたずねたところ、「している」は79.6%、「していないが、してみたい」は12.9%となっています。

これを、家族のお世話の有無別にみても、大きな差異はみられません。

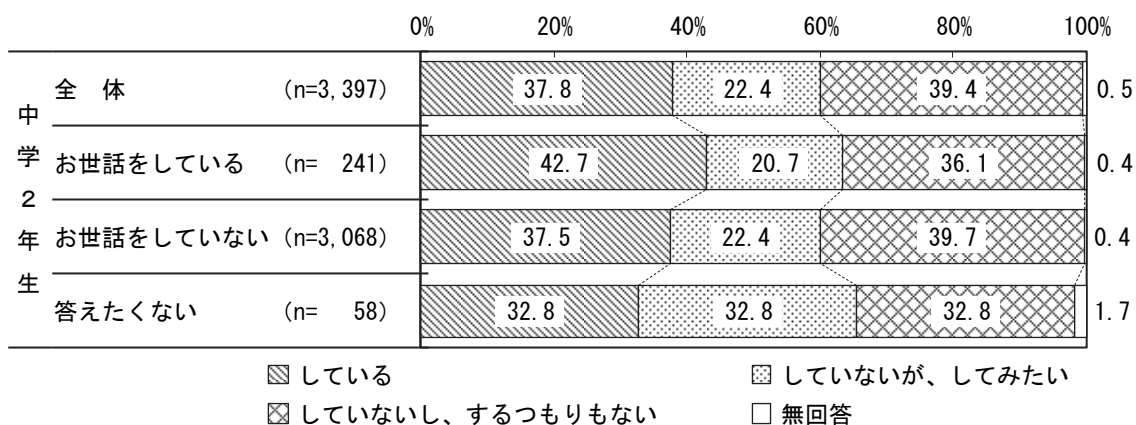
図表2-23 平日の放課後、友だちと遊んだりしているか（小学5年生）



中学2年生には、平日の放課後、塾に通ったりしているかたずねたところ、「している」は37.8%、「していないが、してみたい」は22.4%となっています。

これを、家族のお世話の有無別にみると、答えたくないとした生徒は「していないが、してみたい」が比較的高くなっています。

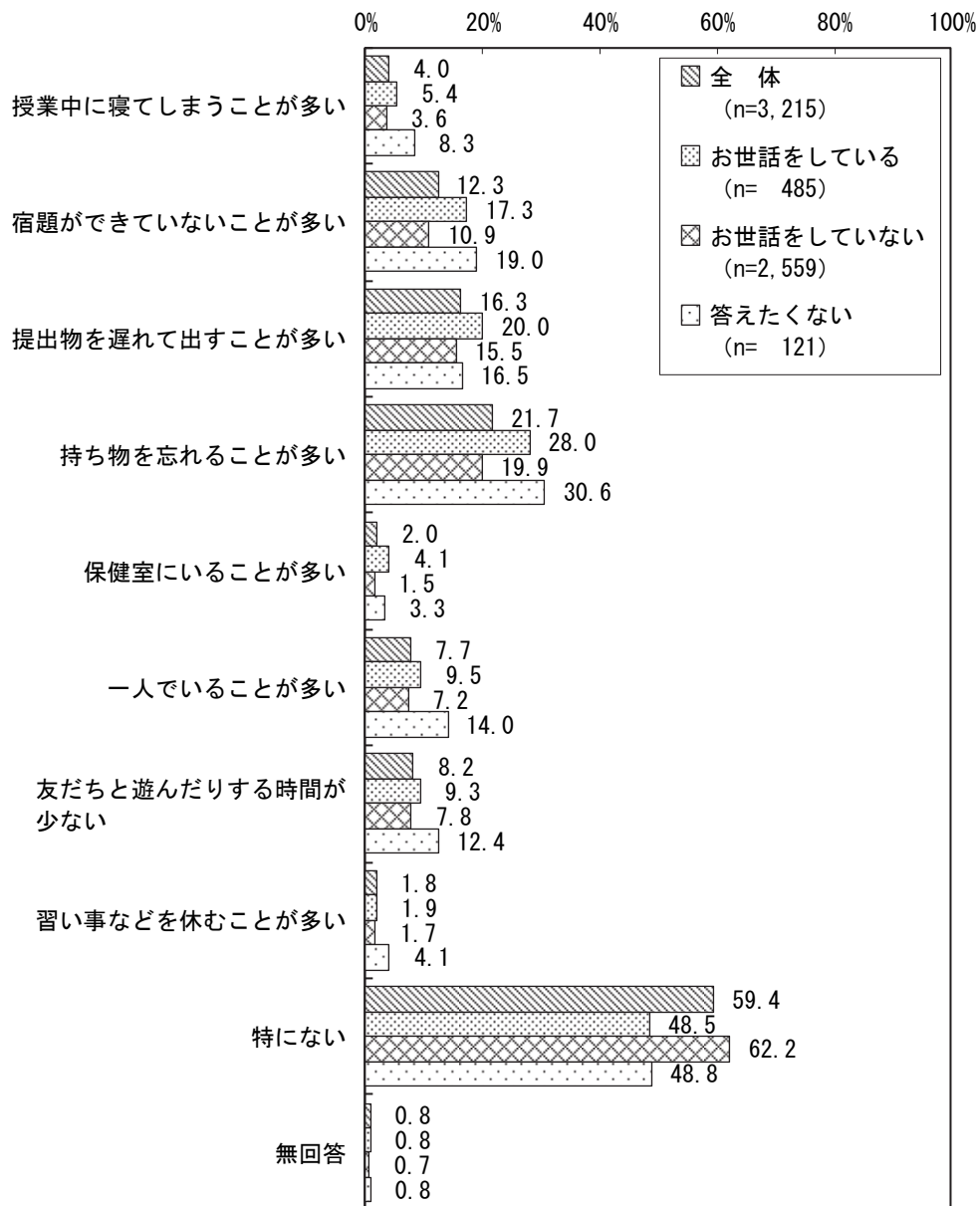
図表2-24 平日の放課後、塾に通ったりしているか（中学2年生）



ふだんの学校生活や放課後の活動であてはまる状況についてもたずねたところ、小学5年生では、「特にない」が59.4%と最も高く、次いで、「持ち物を忘れることが多い」が21.7%などとなっています。

これを、家族のお世話の有無別にみると、「特にない」は、家族のお世話をしている児童と答えたくないとした児童が比較的低くなっています。

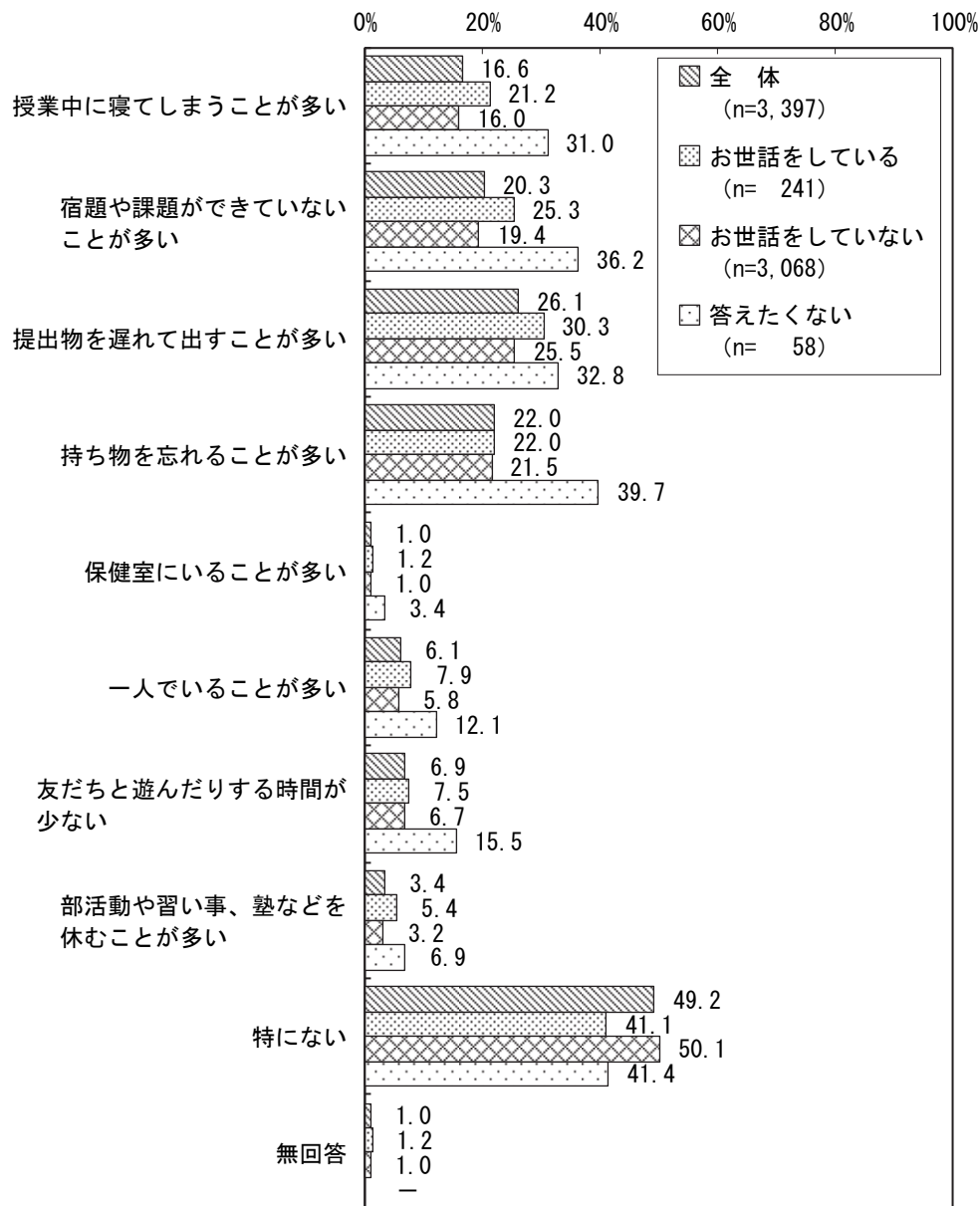
図表2-25 ふだんの学校生活や放課後の活動であてはまる状況（小学5年生、複数回答）



中学2年生でも、「特にない」が49.2%と最も高いものの、次いで、「提出物を遅れて出すことが多い」が26.1%などとなっています。

これを、家族のお世話の有無別にみると、答えたくないとした生徒は、「宿題や課題ができていないことが多い」と「持ち物を忘れることが多い」で比較的高くなっています。

図表2-26 ふだんの学校生活や放課後の活動であてはまる状況（中学2年生、複数回答）



以上の児童生徒の学校や放課後の過ごし方からみると、家族のお世話をしている児童生徒の特徴としては、欠席を「たまにする」ことが挙げられるため、答えたくないとした児童生徒とともに、注視していく必要があると考えられます。

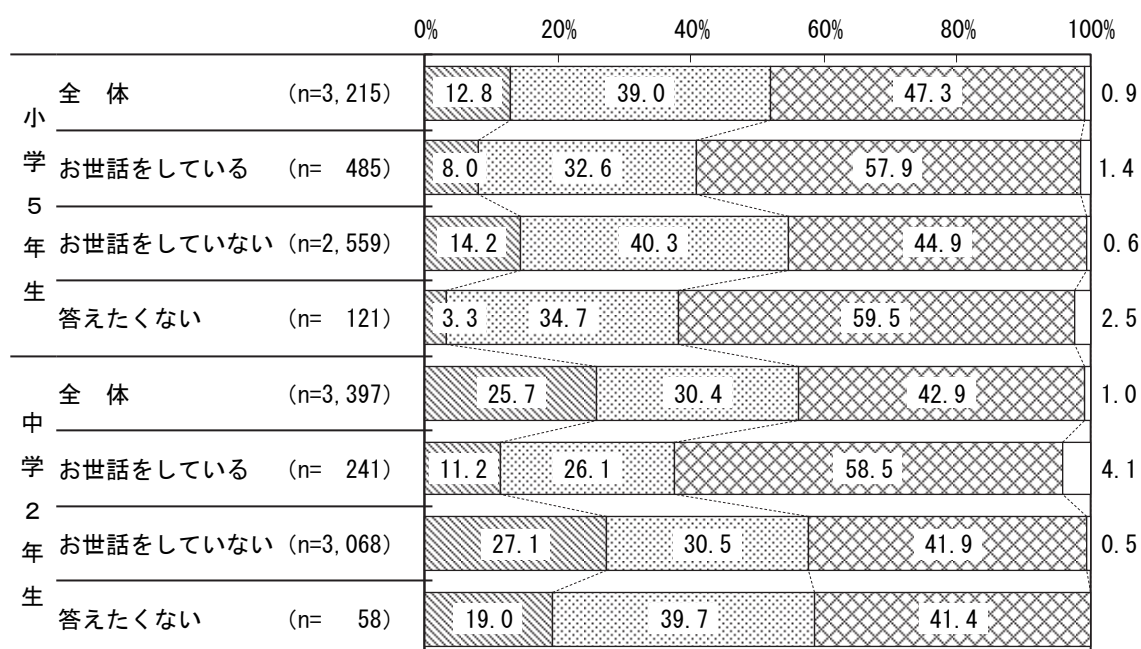
3 ヤングケアラーの認知度

(1) ヤングケアラーの認知状況

ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるかたずねたところ、「聞いたことがあり、どういうことかも知っている」は小学5年生で12.8%、中学2年生で25.7%となっており、「聞いたことはあるが、どういうことかよく知らない」と合わせた《聞いたことがある》は小学5年生が51.8%、中学2年生が56.1%と、それぞれ50%を超えています。回答者の半数以上が《認識している》状況です。

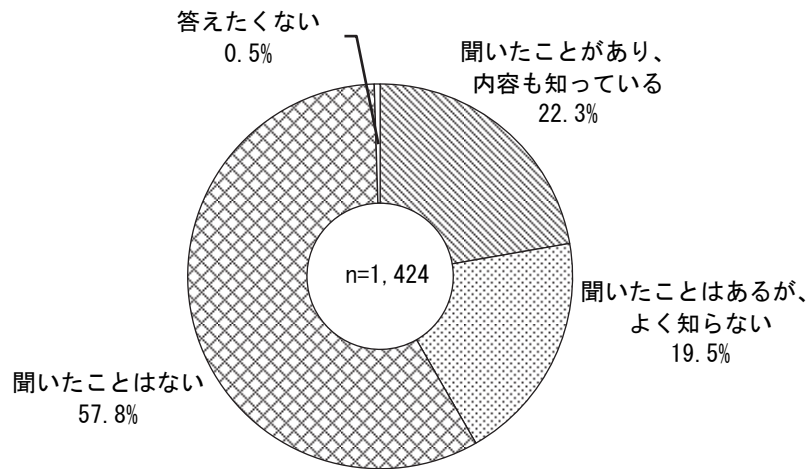
《聞いたことがある》を家族のお世話の有無別にみると、家族のお世話の有無で差異が生じていることから、家族のお世話をしている児童生徒にも届くような周知を工夫していく必要があります。

図表2-27 ヤングケアラーの認知状況



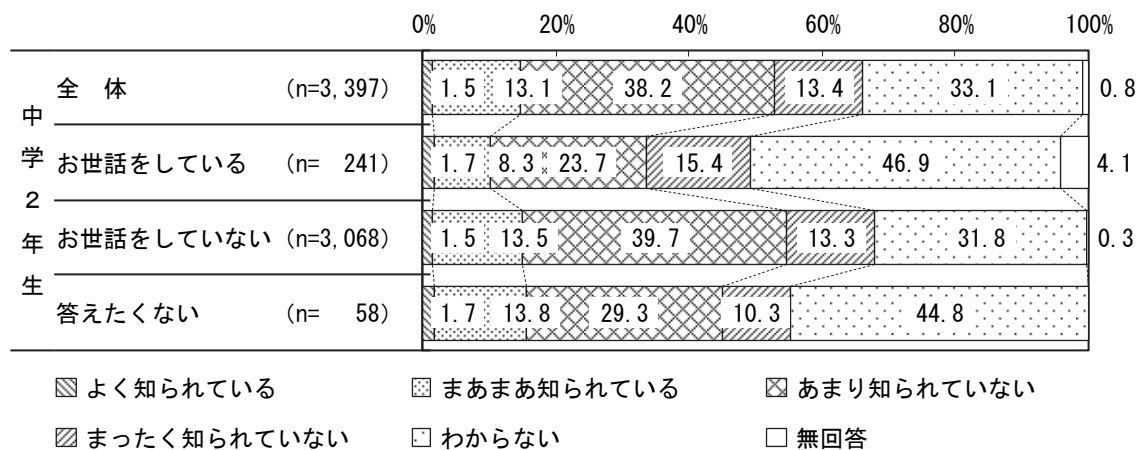
- 聞いたことがあり、どういうことかも知っている
- ▨ 聞いたことはあるが、どういうことかよく知らない
- ▩ 聞いたことはない
- 無回答

【参考】ヤングケアラーの認知状況（令和4年度石川県調査、中学2年生のみ）



中学2年生には、自身が在籍する学校ではヤングケアラーについて知られていると思うかたずねたところ、「よく知られている」（1.5%）と「まあまあ知られている」（13.1%）を合わせた《知られている》は14.6%となっています。なお、「わからない」が33.1%あります。

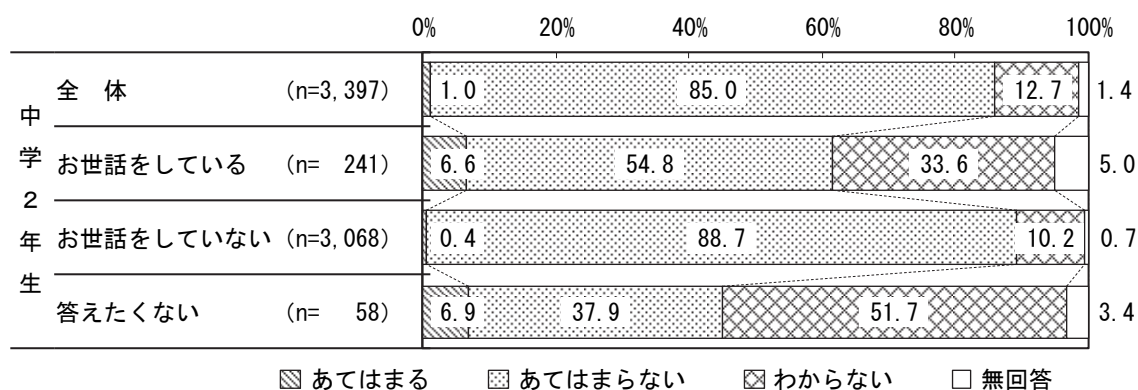
図表2-28 学校ではヤングケアラーについて知られているか（中学2年生）



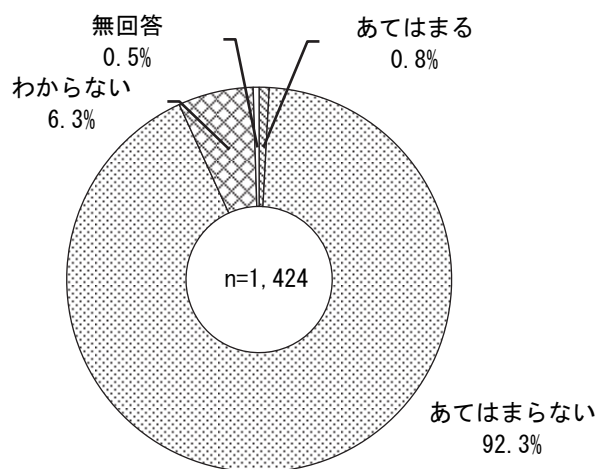
(2) ヤングケアラーの自認状況

中学2年生に、自身がヤングケアラーにあてはまると思うかたずねたところ、「あてはまる」は1.0%となっており、これを家族のお世話の有無別にみると、家族のお世話をしている生徒では6.6%（16人）、答えたくないとした生徒でも6.9%（4人）となっています。

図表2-29 ヤングケアラーの自認状況（中学2年生）



【参考】 ヤングケアラーの自認状況（令和4年度石川県調査、中学2年生のみ）



第3章 意見等

ここでは、この調査において、「ヤングケアラーなど、家族のお世話をしている子どものために必要だと思うことなどがあれば、自由にお書きください」という欄に回答されていた文章を掲載しています。

なお、回答は、小学5年生で938件(29.2%)、中学2年生で1,082件(31.9%)ありましたが、このうち、「特にない」、「わからない」などのほか、具体的に回答のあったものについて、必要に応じて、読みやすさなどに配慮して意味を損なわない程度に省略するなどし、掲載しています。

(1) 小学5年生

○家族のお世話をしている児童

- あまりその子のこと（宿題の出し忘れなど）を責めないことが必要なんだと思います。
- おばあちゃん
- お金
- お金の寄付など。
- お金をかけて大金持ちや大破産してしまった人。
- お手伝いをする。(2件)
- お手伝いのお金がほしい。
- お母さんやお父さんの悩みを聞きたい。
- これから家族を守ったりしようと思います。
- ご飯をつくる、洗濯、お迎え、私たちの世話などだと思う。
- 警察に行く。
- しっかり楽しくお世話をしてあげたい。
- すぐにでも相談してくれている人を見つけて相談し、手を打った方がいいと思います。
- その家族のお世話をしている子の手伝いをする人を週一とかで行かせればいいと思います。そうしたらその子も自分の時間が空くからです。
- その人のお手伝いやその人の代わりにやってくれる人を見つける。
- もっと休憩する時間。
- もっと自分の時間をつくってあげるといい。一人の時間が必要。
- もっと子どもらしいことをして、したいことをさせてあげられたらいいなと思う。
- ヤングケアラーを周りの人が理解し、そんな子どもを増やしたくはない。
- よくお世話に疲れて怒ってしまう人がいるからやめてほしい。
- 運動させる。

-
- 何かを大人がしてあげれば良いと思う。
 - 家族が病気にならないようにお手伝いなどを日頃からしておくことが大事だとわかった。
 - 家族のそばにいる。
 - 家庭教師などの手伝ってくれる人を呼べば良いと思います。
 - 気持ち
 - 休みが必要だと思う。
 - 近所の方がヤングケアラーの子たちを手伝って宿題をしたりする時間や自由な時間をつくったりしたらよい。ヤングケアラーの子の代わりに家事や介護などをしてくれるボランティアがいたらよい。
 - 健康
 - 健康、お金
 - 国が支援したり、身の回りの人が相談に乗ってあげたりしたら良いと思います。
 - 今すぐやって、自由時間をつくる。
 - 困ったときに助けてほしいです。
 - 子どもが学校に行けないと、将来うまくやっていけなくなってしまうから必要だと思う。
 - 子どもの相手
 - 子どもを支える。
 - 支援できる大人がいたらいい。
 - 支援など
 - 時間
 - 時間に余裕を与える。
 - 自分にも休息をしてほしい。
 - 自分の時間（4件）
 - 自分の時間も少しはほしい。
 - 自分の自由時間と話を聞いてくれる方々。
 - 自由と気持ち。
 - 自由な時間を取る。
 - 手伝い
 - 十分な時間
 - 親が世話しているからとっても忙しいと思っている。
 - 大変だと思うから必要だと思う。
 - 大変な作業をしているから、だれかが自分から助けること。
 - 弟の気持ちを考えてあげる。
 - 忙しい人もいるから必要。
 - 優しくする。

-
-
- 幼い子どものお世話（2件）
 - 幼い子どものお風呂

○その他の児童

- あんまり無理はせず、休むこと。
- 一人で家族のお世話をしていると、大変だからそれを支援するサービスがあったほうがいいと思う。
- いろいろなことのお手伝い。
- うれしい言葉を言ってあげるといいと思う。
- おじいさんやおばあさんの世話をするのは、少し難しくてまだ何もできないけど、少しでも元気をつけるために一緒に何かをしたり、おじいさんたちの得意なことに一緒に取り組んであげたりすることで元気になってくれると思いました。
- 大人の手助け。
- おばあちゃんなどは耳が遠かったり、喋る声が小さいひとがいることもあるから、口を大きくあけてしゃべったりすることが必要だと考えました。
- お金（12件）
- お金、時間
- 休み
- 時間
- お金（国の税金）が必要だと思う。理由は、子どもは、働けないしお金ももらえないからです。
- お金、愛
- お金、助け
- お金の助け、相談所など。
- お金やご飯の配布、施設。
- お金を寄付（募金）したりする。
- お金を寄付して、自分だけではなくて、他のお手伝いとかしてくれる方に依頼する。
- お仕事をして子どもを幸せにすることが本当の使命だと思う。子どもを怒ることも大切。時には一緒に笑うことも大切。一緒に遊ぶことも大切。学校に行かせることも大切。いろいろなことが大切だと思う。それが嫌なら親失格だと思う。（子どもを持つ必要がない。）
- お手伝いをする。
- お手伝いをする人。（2件）
- お手伝い。例えば、皿洗い、洗濯物を干す、洗濯物を畳む、布団を畳む、洗濯物をする。
- お手伝いの大人が来る。相談できる人に相談する。

-
- お手伝いさんと呼ぶ。家族みんなで支えながら安心してみんな暮らせるように、それぞれ役割を果たす。
 - お手伝いは自分からするものだと思った。
 - お手伝いロボット
 - お世話してくれる大人。
 - お世話をしている子たちに自由をあげる。
 - お世話をしている子どもたちで集まって、遊んで気を楽しませてほしい。
 - お世話をしている子を楽しませてあげたい。
 - お世話をしている子どもでも、学校に行きやすい環境にするために施設をつくる
 - お世話をしている子どもなどが気軽に相談できる場所。
 - お世話をしている子どもにも快適に過ごせる環境。しっかりとした世話ができるようなお金。
 - お世話をしている子どものためにお世話ばかりではなく、友だちなどと遊べる、みんなが楽しめることをすることが必要だと思いました。
 - お世話をしている人が自由にしたいことができる時間をつくったり、学校などに行けるようにする
 - お世話をするのも大事だけど、自分も大切にすることも大切だと意識するのが必要だと思います。
 - お世話をする人を入れる施設をたくさんつくればよい。
 - お世話を手伝ってくれる人や相談できる人。
 - おばあちゃん、おじいちゃんを呼び出す。
 - お世話を少し休んで、自分のしたいことなどをして、自分の気持と一度向き合うこと。
 - お母さんと一緒に支え合えばいい。お母さんの気持ちや自分の気持ちを大切に。
 - お母さんの負担が大きくなるないように、日々お手伝いをする。
 - 家族を介護する人。
 - がんばりを認めてあげ、褒めてあげる。
 - がんばれ。
 - がんばれ。お金の補助か。
 - がんばれる言葉。
 - これからも大変だと思いますが、がんばってください。
 - クロームブックで学校と通信して学習をできるようにする。
 - ゲーム
 - ゲーム＝金
 - こういうふうに、時々アンケートを取ればいいと思う。クロームだけでなく、人と人とで話せば、もっといいと思う。
-

-
- このようなアンケートをとることは、子どもにとってすごくいいことだと思う。
 - このアンケートをすればいいと思う。
 - 子どもが楽しいという時間、幸せと思える瞬間。
 - 子どものために、他にもいろいろな人が助け合えばいいと思います。
 - ご飯をつくったり、熱が出た人の面倒を見たりすることだと思います。
 - ご飯を買ってあげる。
 - サボること（ふざけてはいません）。
 - 自分の時間、習い事、友だちとの遊びなど。
 - 自分もおからだに気をつけてほしい
 - ずっとお世話をしている人ならば、おやすみをあげたい。少しだけお世話している人でも、無理しないでほしい。
 - スポーツ類はとても必要だと思う
 - せめて学校でゆっくりしてほしい。
 - 洗濯などできればいい。
 - そういう子たちがいるから、学校とかに休憩をするスペースが必要。
 - そういう状況の子を助けられるような人たちがたくさん必要だと思う。
 - そういう人にも手伝ってくれる人が必要だと思う
 - そういった子どもたちが、支援されるような制度があったらいいと思う。
 - 相談
 - お手伝いができる大人とかがボランティアをできたらいいと思います。
 - そのお世話をしている人を預かる施設。
 - その子がやりたいことができる時間。
 - その子どもたちがゆっくりと休めるような時間をつくってあげることが必要だと思います。
 - その家族が家族のお世話をしている人の負担を考えて、ちょうどいいように相談したらいいと思います。
 - その子が家族のお世話とかで学校に来られないならば、仕方ないなとわかってあげることが必要。
 - その子にもその子の時間をつくってあげること。その子にとって、これからどうしたいか、どうしたらもっと積極的にできるかなど、希望などを聞いてよりよいヤングケアラーにすること。
 - その子のためにもっと生活を自由にしてあげたい。
 - その子の休憩できる時間をつくったらいいと思う。
 - その子は友だちと遊びたくても学校が終わって帰ったらすぐしないといけないから、その子の親にしっかり言ったらいいと思いました。かわいそうだなと思いました。
 - その子は、少しの時間だけ休憩したらいいと思う。
-

-
- その子を助ける人や物やこのヤングケアラーのアンケートが必要だと思
います。
 - その子どもに十分な勉強や好きなことをする時間、睡眠などを与えてあげ
てほしい。
 - その子どもの自由な時間。
 - その子どもを手伝う人。
 - その子たちが落ち着けるような場所をつくってあげる。
 - その子どもは、普通の子どもができる大人、親への甘えができていなくて、
自分の気持ちをふさぎ込むような子になりがちだと思うから、その子が心
を開けるような施設（窓口）をつくればいいと思います。
 - その人のお手伝いなどやボランティアなどをしてあげたり、助けてあげた
いです。
 - その人のために支援してあげたらいいと思います。
 - その人が休める場所。
 - その人の休む時間。
 - その人たちのためにいろいろな人が募金をする。
 - それが当たり前だと思わせないことが大切。
 - たくさんの休み時間。
 - たまにはいここや親戚に頼ってもいい。
 - たまには休憩したほうが良いと思った。
 - たまには休んだり、リフレッシュ。
 - たまには休憩も必要。自由な時間。
 - たまには親戚などに頼んで息抜きをしたほうが良いと思いました。
 - たまには友達と遊んだり、休んだりすることが大切。
 - たまに休憩を取ったらいいと思います。
 - たまに休憩を取らせてあげたりする。
 - たまに休憩を取りながら自分のできる範囲の家事をすればいいと思う。
 - たまに自由にさせれる時間をつくってあげればいいと思う。
 - だれかが悩みを聞いてあげたり、大変なことを手伝ってあげたりするこ
とが必要だと思ひます。
 - ちゃんと家の人の世話をする人が必要だと思ひ。
 - テレビでヤングケアラーについてみんなに教えてあげたりしたらいいと思
ひ。
 - どんなささいなことでもいいから自分のできることはすべてやることが
必要だと思ひ。
 - どんな人にも休みは必要だと思ひます。
 - 何か物資みたいなものを配給すると少しは負担が和らぐから、そういうこ
とをするのがよい。
-

-
- なかなか学校に行けず、あまり勉強ができていないから、夜やっている学校とかにか通えばいいと思いました。家に家庭教師などを呼んで勉強をすればいいと思いました。
 - なるべく手伝ってあげたい。
 - バスや電車などで席を譲る。
 - ヘルパーなどを教えたい。
 - ヘルパーを数人派遣する。
 - ヘルパーを増やしてヤングケアラーの人を支援する。
 - (グーグルの) ミートで授業を受けること。
 - ぼくが家族のお世話をしている子どものために必要だと思うことは、一人の落ち着いた時間や友だちと長く遊べる時間です。
 - ボランティア (手伝い)
 - ボランティアとかをつくってお世話してもらう。お母さん、お父さんが、大変だったら自分でやる。
 - ボランティアの人が家に来て、家事を手伝ってくれるといいと思う。
 - みんなが平等に勉強できるように、他の家族がやってあげる必要があると思います。
 - みんなで支え合ったり、支援をしてあげればいいと思う。
 - みんなとの時間も大切にしてください
 - みんなと楽しく遊ぶ時間。大変さをわかってくれる人。
 - みんなと遊ぶこと (時間)。
 - 「一緒に遊ぼう！」と声をかける。
 - 遊び
 - めんどくさくさながらにやることをちゃんとする。
 - もう少し自分のために使う時間を増やしたほうがいい。
 - もししている人が身の回りにいたら、手伝ってあげたり、交代でやったりしたい。または、声かけをして少し休ませてあげたりしたい。
 - もし病気の家族がいた場合、病院などに頼ればいいと思う。
 - もっと、支えたほうがいいかもしれない。
 - もっと寄り添ってあげるのも大事だと思う。
 - やりたいことを1日でもいいからやらせてあげる。
 - やりたいことを自由にすること。
 - ヤングケアラーが必要だと思いました。理由は、もしも家におじいちゃんがいたらどうすればよいかかわからなくなってしまうから必要だと思いました。
 - ヤングケアラーをしている子どもの友だちなどが励ましてあげたりして、やる気や元気をあげればいいと思います。
 - ヤングケアラーだと思う人はしっかり相談することが必要だ。

-
- ヤングケアラーだと思っていない人や周りの人に助けを求められない人がいると思うから、それをすぐ見つけ出して助ける人が必要だと思います。
 - ヤングケアラーではない人の普通の生活を体験すること。(2件)
 - ヤングケアラーで家族のお世話をしなければならなくて友だちと遊べないような人がいたら、それを見逃さないで、何か対処法を考えたり、近所の人などに手伝ってもらったりして、ヤングケアラーの子にも自由な時間をつくるのが大切だと思う。
 - ヤングケアラーで時間がない人のための学校。
 - ヤングケアラーというものは、親の介護を息子、娘がしているという状況のことなので、簡単に申し込める介護センターがいいと思います。
 - ヤングケアラーという言葉を知って、私やったことなどないからヤングケアラーは大変なんだと思いました。
 - ヤングケアラーなどで、学校のこと(宿題など)をする時間がない子もいると思うから、時間が必要だと思う。
 - ヤングケアラーなどの子どもには世話だけでなく学校に通わせたり、友だちと遊ばせたりするとよい。子どもだけでなく、お母さん、お父さんも世話をするとよい。
 - ヤングケアラーなどをしている子どもを助けるとか手伝う人とか、その子どもが少しでも楽になれるようなものをつくったりをする。
 - ヤングケアラーのお世話をしている子どもに楽しいことをしてあげたい。
 - ヤングケアラーのためのお話講座などしたり、共感できる人と話させてあげることが必要。
 - ヤングケアラーのための相談所。
 - ヤングケアラーが学校生活に影響が出ているのなら、担任の先生に相談を聞いてもらったりするといいと思います。
 - ヤングケアラーの子たちは、自分の時間まで絞って、家事などをしています。その子どもたちは、まだ幼い子たちばかりなので、その幼い子たちの時間を奪うことになるので、家事代行サービスなどを使ったりして、その幼い子たちにしたできないことをやらせてあげたいです。
 - ヤングケアラーの子どもたちに教育的支援や経済的支援をしてあげたほうがいいと思う。頼れる大人を紹介する。
 - ヤングケアラーの子どもが、家族のお世話に時間を費やし、自分のしたいことややりたいことを諦めてしまわないように、大人が普段から見守り、必要な支援を提供することが大事だと思う。
 - ヤングケアラーの子どもが頼れて、支援ができる施設をつくったほうがいいと思う。
 - ヤングケアラーの人が一人で抱え込まないように、だれかに簡単に相談できること。

-
- ヤングケアラーの子どもは学校に行けない日や遅刻する日があると思うから、注意するのではなく、「がんばったね」などと声かけをしてあげたらいいと思う。
 - ヤングケアラーの子たちを手伝うことが必要だと思います。
 - ヤングケアラーの人が言わなくても、周りの人が気づいて偉い人たちに相談すれば、子どもの負担も少なくなるし、楽しく学習することができると思います。
 - ヤングケアラーの場合、他の人に伝えたりする。
 - ヤングケアラーの人たちを支えたり、お手伝いするサービスみたいなものが必要だと思う。
 - ヤングケアラーの人には、補助がいると思う。
 - ヤングケアラーの人にも十分な休憩が必要。だれかにそのことを話すといいと思う。
 - ヤングケアラーの人のために、例えば、通訳をしている人がいたら、その人に声をかけたりすればいいと思います。
 - ヤングケアラーの人は、自分ばかり世話などをしているので、自分だけでなく、他の人(介護ができる人など)といっしょに家族の介護を行えばいいと思いました。そうすれば、学校にもちゃんと行けるし、家族の面倒も見られるのでいいと思いました。
 - ヤングケアラーの人は多分そのお世話をしている人のことを常に考えていると思う。だから自分のやりたいこと、したいことなど、もっと自分についてのことを考えられる時間があればいいと感じる。
 - ヤングケアラーの人への募金活動をしたりすることが必要だと考えました。
 - ヤングケアラーの人もその子どももしっかり子どもらしく生活できるような社会をつくっていく必要があると思う。
 - ヤングケアラーの人やその人のやりたいことをやる時間。
 - ヤングケアラーの人を見かけたら自分たちも協力する。
 - ヤングケアラーの生活に支障が出ないようにするもの。
 - ヤングケアラーの代わりにやってくれる人を手配する。
 - ヤングケアラーの方にお世話係みたいな人を雇ったりして、その子にも楽というか人生を楽しんでもらう。
 - ヤングケアラーの話を聞いてあげる人が必要だと思う。
 - ヤングケアラーは、病気などにかかっている人にはとても大切だということがわかった。
 - ヤングケアラーはあってもいいと思うけど、その本人が大変だったり嫌な思いがあったりするなら何とかすべきだと思う。
 - ヤングケアラーをしている子どもも休む時間（休憩時間）を取ることに。

-
- ヤングケアラーをしている子どもたちに快適な施設をつくれればいいと思う。社会福祉士等や介護の資格を持っている人に午前中は預けて、午後と一緒にいるなどして、家族でいても安心できるような場所をつくったほうがいいと思う。(医師や管理栄養士も入れる。)
 - ヤングケアラーを手伝う人をつくり、電話で頼まれたりすると、その場所に行って、ヤングケアラーを手伝えればいいと思います。
 - ヤングケアラーをしている子どもたちが学校などで影響があるのなら、介護などをする人を雇ったりして自由な暮らしができるようになったらいいと思う。
 - ヤングケアラーを支えるロボットや人。人でいうと、例えば家事代行など。
 - ヤングケアラー専用の施設をつくる。
 - ヤングケアラーをしているだけじゃなくて自分の時間も取ったほうがいいと思う。
 - ヤングケアラーのために学校では、周りと同じように優しく接したり、そのヤングケアラーの人たちが大変な分、学校では休んだり休憩できたりする居場所をつくるのが大切だと思ったし、必要だと思いました。
 - 私は、必要だと思います。理由は、必要じゃなかったらそのヤングケアラーがないと思うからです。
 - 私は家族のお世話はしていないけど、家族のお世話をしている子どもと一緒にしてくれる大人やお世話をせいで宿題や勉強ができない環境をつくらないことがよいと思います。
 - ゆっくり休む時間。(3件)
 - ゆっくりする時間。
 - ロボット
 - 安心して過ごせる場所。
 - 安心して自分の生活ができる環境。
 - 一緒に看病してくれる人を探す。
 - 一緒に手伝ったり、一緒に何かを分かち合える人が必要だと思う。
 - 一人じゃ大変だと思うからだれか手伝ってくれる人がいたらいいと思う。介護福祉士みたいな人。
 - 一人だけの自由な時間。友だちと遊べる時間。
 - 一人だと難しいこともあると思うから、手伝いが必要だと思います。
 - 一人でお世話をするんじゃなくて手伝えることは手伝うこと。
 - 学校のみんなは放課後遊べるけど、自分だけ遊べなくて友だちがいなくてもいいから、みんなと遊べるようにすること。
 - 一人でご飯をつくる。
 - 一人でやっていたら周りの大人に手伝ってもらったらいいと思う。
 - 一人の時間。(3件)

-
- 一人の時間はあったほうがいい。ゆっくりする時間が大切。
 - 一人ひとりがいじめに合わないのがよいと思う。
 - 応援（2件）
 - 何でも抱え込むのじゃなくて親しい人に相談したら、少しでも気が楽になると思う。
 - 家のことをしてくれたり、家族の介護をしてくれる大人がいると、ヤングケアラーの子どもたちも少しは、楽になると思いました。十分な食料や通訳機などがいると思います。
 - 家事
 - 家事をちゃんとできるようにする。
 - 家事を手伝う。
 - 家政婦さん。
 - 家政婦を雇う。
 - 家族のお世話。
 - 家族のお世話してくれる人を雇う。
 - 家族のお世話だけをするのじゃなくて、少しはお母さんたちからもお世話をされたほうがいいと思います。
 - 家族のお世話で疲れたときは、しっかり休憩を取る。
 - 家族のお世話で忙しい子どもは少なくはないと思うので、その子たちは、それで自分の勉学に励むことができないのなら、家で授業を受けることができるようにしたら、家でおばあちゃんやおじいちゃんの介護をしつつも勉強ができたなら、それがベストだと思います。
 - 家族のお世話は四六時中面倒を見ないといけないし、友だちとの交流や遊ぶ楽しさもわからないし、何しろストレスが溜まるため、ヤングケアラーの人をお世話するサービスをつくり、子どもが家族のお世話をする時間を減らし、遊ぶ時間や友だちと交流する時間をつくったほうがいいと思います。
 - 家族のお世話をしていてあまり学校に行けていないかもしれないから、募金活動や介護をしてくれる人を無料で雇ったりすることが必要だと思います。
 - 家族のお世話をしていても、元気に学校に行けたり、友だちとたくさん遊べるような環境をつくる。
 - 家族のお世話をしていて学校などを欠席している子どもたちのために、ヤングケアラーをしている子どもたちに、今のヤングケアラーについての悩みごとなどを聞き、できるだけ悩みごとを解決できるようにする。
 - 家族のお世話をしている子どもにもっと自由に時間を増やしてあげる。
 - 家族のお世話をしている子どものために、その子どもに2日に1回休ませたらいいと思います。

-
- 家族のお世話をしているのを代わってあげたり、必要なお金を渡すことが大切だと思います。
 - 家族のお世話をしている子どもたちが学校生活ができるように、看病などをしてくださる大人が必要だと思います。少しでも子どもが楽に生活できるようにすることが必要だと思います。
 - 家族のお世話をしている子どもたちのために支援するお金を少しでも寄付し、少しでも生活などを楽にする支援活動がいいと思いました。
 - 家族のお世話をしている子どもに自由な時間をつくればいいと思います。
 - 家族のお世話をしている子どもには、休息や自分が楽になる休み方が必要だと思いました
 - 家族のお世話をしている子どもに思いやりの気持ちを持って手伝えることがあるなら言ってとゆう気持ちになる。
 - 家族のお世話をしている子どものために、お世話をしている子どもの自由にできる時間をつくってあげたらいいと思う。
 - 家族のお世話をしている子どもは、なるべく親しい人に相談したり、介護をする日などが必要だと思う。
 - 家族のお世話をしている人たちは、勉強などができない時間が増えるから（お世話をするから）、自分の時間を少しでもいいからつくってほしい。
 - 家族のお世話をして学校に行けてないから、ほかの人にお世話してもらって、学校に行ってほしい。
 - 家族のお世話をする子どもの代わりの人
 - 家族のお世話を一人で受け持って苦しかったり、困っていたり、自分のことに支障をきたしたりするのはとてもかわいそうだから、支援をする仕組みなどをつくったらよいと思います。
 - 家族のこともかまって、自分のことをかまってほしい。
 - 家族のことも大事だけれど、自分の勉強もがんばってほしい。
 - 家族のことも大切だが、自分の時間も大切にしなきゃいけないと思う。
 - 家族のみんなで家事をしたらいいと思いました。
 - 家族の心配（家族思い）。家事をすること。
 - 家族をお世話できる道具とか、もし子どもより小さい赤ちゃんとかだったら、おもちゃを使うとかすればいい。
 - 家族をお世話できる分の時間とお金。
 - がまんせず、困っていたら気軽に話せる相談機関に電話をして気持ちが楽になってほしい。
 - 介護
 - 介護する人が必要。子どもだとわからない時があるかもしれないから。
 - 介護している人がおじいちゃん、おばあちゃん、障害者ならお家の人に相談して介護センターに入れればいいと思います。

-
-
- 介護とか看病のことを何も知らない子どもが介護や看病をするより、本当にそれを職業にしている人がやったほうが良いと思う。それのお金も子どもでも払えそうな額か無料にしたほうが良いと思う。
 - 介護をしている家族を一定時間（友だちと遊ぶ間など）無料で預かるなどのポスターをこのアンケートでヤングケアラーの疑いがある子、すでに生活支障をきたしている子に配れば良いと思う。
 - 介護する人を雇うお金
 - 介護施設が必要だと思う。
 - 介護施設など。
 - 介助を手伝う人。（2件）
 - 学校と家以外の居場所。
 - 学校に行くのがつらいときや苦しいときに自分一人、先生と自分になれるようなスペース。
 - 学校に行く時間やちゃんとした食事や睡眠時間。
 - 楽しい楽な時間。
 - 楽しい時間。
 - 寄付金（過ごすための金）
 - 寄付金や介護を手伝ってくれる人を派遣したり、その人が要求したものをあげたり、周りの人の理解も必要だと思います。
 - 気を遣う（2件）
 - 気持ち
 - 気持ちが大変だと思う。
 - 休ませて学校生活をできるようにする。看病などは大人がする。
 - 休み（2件）
 - 休み、愛情
 - 休み、娯楽
 - 休みの時間。自分だけの時間。したいことをする時間（何かをする時間）。
 - 休みや休憩。
 - 休むこと。
 - 休むことも大事だと思います。
 - 休む時間。（4件）
 - 休む時間。自分のことをする時間。
 - 休憩（2件）
 - 休憩する時間。学校へ行ったり、友だちと遊んだりする時間。家族のお世話をするお手伝いをしてくれる人。
 - 休憩や自分の時間。
 - 休憩や自由な時間を取ったほうが良い。
 - 休憩を取ること。

-
- 休憩時間（3件）
 - 休憩時間など。
 - 休息
 - 協力
 - 協力すること。
 - 教育
 - 近くに頼れる大人が必要だと思いました。理由は、お母さんやお父さんは、何かしていて、子どもに任せてしまっているから、親戚等の頼れる大人がいるとよいと思いました。
 - 金、時間
 - 警察、市役所にどうすればいいか、こういうことがつらいとかそういうことを自分ですぐに言えることが必要だと思います。
 - 県からのお金。ベビーシッターなど、子どものお世話をしてくれる人。同じヤングケアラーの人とお話ができるアプリ
 - 元気
 - 元気な大人が必要だと思いました。
 - 言葉づかい、優しくお世話すること。
 - 交代でしたりできる仲間や大人の人を呼べるシステム
 - 好きなことをさせてあげたり、友だちと遊ぶ時間などをつくってあげたらいいと思います。
 - 好きなこと全部を我慢する必要はない
 - 慌てずに行く。
 - 高齢者だけでなく介護が必要な大人や子どもも入れる施設。
 - 高齢者などの洗濯・洗い物などの手伝い。
 - 国や自治体が支援する。
 - 今も学校で子ども向けの相談の紙がたまに配られるけど、電話をもっていなかったり、お金がなかったり、使い方がわからなかったりして、公衆電話も使えない子のための工夫もしたほうがいいと思う。
 - 最低でも週に一回には、休む日を与えたほうがいいと思う。
 - 皿洗い（3件）
 - 子どもがお世話すると宿題をする時間などがなくなるから、だれかほかの人がやるといいな。
 - 子どもたちが楽しく正しい学校生活を送ってほしい。普通の生活を送ってほしい。
 - 子ども以外にも周りの人とがんばればよいと思う。
 - 子どもが一人で買い物に来たら、スーパーなどは安くしてあげる。
 - 子どもがどれくらい家族の世話をしているのかは知らないけど、ほとんどの時間で世話をしているのなら自分の時間を増やしたほうがいい。
-

-
-
- 子どもがお母さんの手伝いなどがわかりやすくするとか。
 - 子どもが世話するのではなく、代わりに世話してくれる仕事の方がもっといたほうが良いと思う。
 - 子どもだけが責任を抱えないように周りの大人の人たちが手伝ったりしてあげる。
 - 子どもだけじゃやりきれないこととあるから、近所の人に少しでも頼れば良いと思う。
 - 子どもだけだったら何もできないから、大人や回りの人を呼んだりしたらいいなって思いました。
 - 子どもだけでいろいろな家事をするのは大変だから、いろいろな人に協力してもらうことが大切だと思います。
 - 子どもだけではなく、大人も家族のお世話をすること。
 - 子どもにはできないこともあるから、大人の手伝いに近いやり方でする日程を伝えておく。
 - 子どもにもほかの大人がお世話をしてあげること。
 - 子どもに自分の時間が必要だと思う。
 - 子どもの介護をサポートする人が必要。
 - 子どもの代わりにお世話する人。
 - 子どもの力だけだとだめだと思うから、親戚の人、ほかの大人の人などの力が必要だと思う。
 - 子どもは、自分の楽しいこと好きなことを全力ですべきだと思うし、家族のお世話が大変なら、大人の人に頼って休憩することが必要だと思う。
 - 子どもは自由に毎日遊ぶことが必要だと思う。
 - 子どもは働くことができないから、食べ物などの必需品、お金の配布がヤングケアラーの方々に必要だと思います。
 - 子どもは遊んだほうが良い！
 - 子どもを大切にし、親たちで守る。
 - 子ども以外の方がする。
 - 子ども一人では大変だから、協力してやる必要がある。
 - 子どもたちがその場に居やすくなるような環境をつくる必要があると思う。
 - 市からの支援、特に補助金を出すなど。
 - 市や県がこのようなアンケートを取ってヤングケアラーを支持するべきだと思う。
 - 思いやり（3件）
 - 思いやり、責任を持ってやること。
 - 支援（2件）

-
- 支援が必要だと思う。理由は、お世話している人がどんどんつらくなって自殺しないといけなくなるかもしれないから。
 - 支援や募金をして、その子どもが親がいる子どもみたいにうれしいことをすればいいと思います。
 - 支援金を県や国から出す。
 - 支援金を国または県から出してあげれば少しは楽に過ごせると思います。
 - 施設
 - 施設がもっとあればいい。
 - 施設に入る。
 - 施設に入ってもらうか、地域の人の手伝ってもらう。
 - 施設へのお金を出してあげる。それも毎日にならないように親に合わせてあげる。
 - 児童相談所
 - 児童相談所に気楽に相談できる電話が必要。
 - 時間（4件）
 - 時間、金、気持ち、友だち、人手、愛
 - 時間の獲得や十分な自由。
 - 時々しっかり休むことが大事。
 - 自信を持ってやる。
 - 自動の物。
 - 自分ができることはしたい。
 - 自分ができることはなるべくやる。
 - 自分がやらなきゃいけないことを優先する（宿題など）。たまに遊ぶ。
 - 自分からやるべきことをする
 - 自分が思っていることやりたいことを自由にしたり言ったりさせ、落ち着く場所を見つける。だれか友だちと思いきり遊ぶ。気持ちよくなるから。こうゆうふうには自由な時間をあげる。
 - 自分がいろいろできる時間をつくってあげたい。
 - 自分だけの時間をあげること。
 - 自分ではそんなことをしていないけど、命を守るという気持ちをしっかり持ってほしいです。そして、今その人という時間を大切にしてほしいです。
 - 自分で家族のお世話をすることが大切だと思います。気づきと理解を広げること。安心して話せる場所の確保。
 - 自分に対しての「自信」が必要だと思う。
 - 自分の「時間」をつくってほしい。
 - 自分のことだけじゃなく家族のこと考える。
 - 自分のこともしないといけなから、できることは自分でやってもらって、できないことだけをだれかに助けをもらう。

-
- 自分のおばあちゃんが足が悪くなってたまに転んだり、お風呂を一週間入らなかつたりします。なので、塾でおばあちゃんの家に行くときは介護をしてあげたいと思いました。
 - 自分のことをする時間。勉強する時間。
 - 自分のためだけに使う時間と自分がしたいことをする時間。
 - 自分のために使える時間。手伝ってくれる人。
 - 自分のための時間が必要だと思った。
 - 自分のための時間をつくること。
 - 自分のできる範囲で無理せずやればよいと思う。
 - 自分のやりたいこととかができないから、代わりにだれかがやったほうがよいと思う。
 - 自分の気持ちを言う。家族に相談してみる。ときには休んだり、自分のしたいことをする。(許可をもらう)
 - 自分の思いをほかの大人たちに話したり、もやもやしていることやどうすればいいかを話すことがよいと思います。
 - 自分の好きなことがお世話していたら、遊んだり勉強するのが大変になっていくから、そういうのは信頼できる大人や施設とかを使ったほうがよいと思います。
 - 自分の時間(6件)
 - 自分の時間も大切に。(2件)
 - 自分の時間、精神の回復
 - 自分の時間、勉強の時間、遊ぶ時間、趣味の時間、習い事
 - 自分の時間、友だちとの遊び時間、勉強時間
 - 自分の時間があまりないから自分の時間を取ってほしい。
 - 自分の時間が必要だと思う。ほかの人がその人のしていることをたまにすればよいと思う。
 - 自分の時間はちゃんと管理をしなければいけないと思う。
 - 自分の時間も大切に。たまには自分の好きなことをしたらいい。
 - 自分の時間をあげればよい。
 - 自分の時間をあげられるよう、家族が手伝う。
 - 自分の時間をつくってあげたほうがよいと思います。
 - 自分の時間をどう使うかは自分で決めて、今しかできないことをどんどんやること一人でするんじゃなくて、ちょっとずつ分けてすればよいと思いました。
 - 自分の時間を取れるようにしたい。
 - 自分の時間や息抜きもしてほしいです。
 - 自分の時間をつくる。
 - 自分の時間をつくる。たまには父母に任せるか休む。
-

-
- 自分の時間をつくること。休む時間をつくる。
 - 自分の時間をつくる必要だと思います。
 - 自分を休ませる時間が必要だと思います。
 - 自分を大切に！
 - 自分の負担を減らせるように看護師などに家に来てもらって看病してもらおうとよいと思います。
 - 自分は違うが、介護をしている子ども（ヤングケアラー）へお金をあげるといことをして、少しでも負担が減るようにしたい。
 - 自分一人で何でも抱え込まず、近くにいる大人に相談する。苦しかったら苦しいとちゃんと言う。
 - 自由（3件）
 - 自由、友だち、遊び（友だちと）
 - 自由、金、命、幸福
 - 自由と平等。
 - 自由な一日
 - 自由な時間（4件）
 - 自由な時間、習い事
 - 自由になれる時間。
 - 自由に知的障害の方たちをみる施設が必要だと思う。
 - 自由に友だちなどと遊べる時間。好きなことに集中できる時間。
 - 自由に遊んだり、息抜きしたりすることが必要。歩くのが難しいおじいさんやおばあさんを助けてあげる場所をつくる必要（障害者なども）。
 - 自由時間をつくって、できる範囲のことをしたらいいと思います。
 - 車椅子や白杖、補聴器などを寄付する。何かあった時の対処法の本をあげる。
 - 手伝う（2件）
 - 手伝ってあげる。
 - 手伝ってあげたり、自由な時間をあげたらいいと思う。
 - 手伝ってくれる友だち。
 - 手伝ってほしいときにどこかのだれかに言えば手伝いに来てくれる。
 - 周りの助け。
 - 周りの人が、ヤングケアラーの人について知ること。
 - 周りの人が、お世話をしている人にやさしく接する。
 - 週に何度かだれかが家事をお手伝いしにきたらいいと思う。
 - 十分に学校へ通う余裕が必要だと思いました。そして他の友だちと遊ぶ放課後の時間も必要だと思います。
 - 宿題などあまりできていなくても、その子は家族のために自分の時間を削ってまでお世話をしているのだから、責めないでほしいです。

-
- 宿題をする時間がないと思うから、その子の宿題を少なくする。
 - 助けになる人が必要だと考える。
 - 助けになる大人が必要だと思う。
 - 小さい子にサポートしてくれる人。
 - 少しだけでも友だちと遊んだり、自分のやりたいことをやれる時間。つらいときに気軽に相談できる人
 - 少しでもできることがあれば手伝ってあげたいと思いました。
 - 少しでも楽になるようにボランティアをつくる。
 - 少しは休ませる。
 - 少しは自分のために時間を使ったり、休憩したほうが体も少しずつ健康になっていくと思いました。
 - 障害などがある子どもたちが通える施設があれば、少しでも負担が減ると思う。
 - 障害などを持っている人を支える人。障害などを持っている人も、自分でできることをやる。
 - 障害のある大人の人やその家族に補助金をあげる。
 - 障害や病気をしている人をお世話をできる人がいたらいいな。
 - 障害を持っている人用のお仕事をしている人を雇うことが必要だと思う。
 - 常に子どもが気軽に相談できる場所や気持ちを交流するところ。
 - 食べ物のお金が安くなるといい。
 - 食事
 - 食事、話を聞くこと。
 - 食物やいろいろな物を安く。
 - 信頼できるお世話してくれる人。
 - 心のケアだったり、家族を引き取ること、税金などのお金のことだと思います。
 - 心の支え
 - 心の支えになってあげる。相談に乗ってあげる。
 - 親、助けてあげられる人。
 - 親が自分はやることをやったのに何度も同じことを言う。ちゃんとやったら買ってあげると言っても買ってくれない。自分を監視している。
 - 親の助けなどがあつたらいいと思います。
 - 親戚とかにいて、見かけたら少しお世話をする。
 - 親戚などの身近な人が必要だと思う。
 - 親戚の人や親しい人に協力を求めるとよいと思う。
 - 親切心、優しい心、行儀がよい。
 - つらかったらすぐに伝えられるようにできることが必要だと思う。
 - 人に言いやすい環境をつくること。

-
- 人の面倒を見られる人を全国的に増やしていけばいい。
 - 人手
 - 生活
 - 睡眠時間、自由時間
 - 睡眠時間をしっかり与えること。子どもにも休憩時間をあげること。ほかの大人も支援してあげること。子どもにも自由な時間をあげること。
 - 世話や看病をしているので、友だちと遊ぶ時間が少なくなったり、自分がしたいことができなくなったりしているかもしれないので、しっかり休んで、自由の時間もあつたらいいなと思いました。
 - 政府がヤングケアラーの家庭に何かしらの補助金を出す。
 - 政府が手伝ってほしい。
 - 税金でヤングケアラーの人が苦勞しないように何とかする
 - 絶対にあきらめたらだめ。一生懸命がんばる。でも無理はしない。
 - 先生などに相談する。
 - 専用の介護をする人が必要だと思う。
 - 洗い物をする。洗濯物をたたむ。
 - 洗濯、ご飯づくり、お風呂
 - 洗濯、食器洗い、掃除
 - 洗濯干し
 - 洗濯物
 - 全員しっかりとその自覚を持ってして続けること
 - 掃除をする
 - 相手がどういう思いをしているかどうかを考える事が大事。
 - 相手の気持になって接したい
 - 相手の気持を思う。
 - 相談
 - 相談する場所、息抜きする場所、ストレスを解消できる場所
 - 相談する相手が一人でもいるとよいと思います。
 - 相談できる場所をつくる。だれかが少し手伝う。
 - 相談に乗る。
 - 相談窓口やヤングケアラーの子どもに寄り添う場所をつくったらよいと思う。
 - 息抜き
 - ほかにもお世話してくれる人がいればいいと思う。
 - ほかにの人にその家族が侮辱されても耐えられるメンタル
 - ほかにの人たちも協力しておばさんやおじさんに手伝ってもらえばよい。ほかの大人の人々の支援とかが必要だと思います。
 - ほかにの人にも頼りにする。
-

-
- 体調が大丈夫かを確認する
 - 代わりにお世話してあげるような仕事をつくる。
 - 代わりにお世話してあげる人がいたほうがいいんじゃないかな。
 - 代わりにお世話をしてくれる（2件）
 - 大人が介護できるような環境
 - 大人が責任をもって子どもの世話をする。大人もできることはする。
 - 大人に、自分でできることがあれば、やってもらう
 - 大人になるまで、お手伝いで助けることのできる練習室
 - 大人の人やヤングケアラーの子どものために支援をする。
 - 大人の人や介護したほうが子どもへの負担は和らげると思いました。
 - 大人の人や手伝ってあげたり、助けてあげる。
 - 大人の人や助けないとダメじゃないかなと思います。
 - 大人の人や少し見回りに行く。
 - 大人の人に相談すると気持ちがよくなる。
 - 大人の人やそばにいてあげることが必要だと思う。（家族以外の人でも）
 - 大人は、ヤングケアラーなどにサポート、またはそれらの補助になるものがあげべき。
 - だれかにもたれかかるのではなく、ヤングケアラーと同じ立場で話すことがよい。
 - 大人を頼る
 - 大人を頼ること。
 - 大切にお世話をする。
 - 大変そうだと思う。
 - 大変だと思うけど、がんばってください。
 - だれかが悩みやもやもやを聞いてあげるのが必要。
 - だれかと一緒にやる（大人）
 - だれかに相談
 - だれかに相談したらどうかどうかなと思いました。かわいそうだなと思いました。
 - だれかに相談することが必要だと思います。
 - だれかの手伝い
 - だれか違う人が、手伝ってあげることが必要。
 - だれか人をやとえばいい。
 - 担任や友だちなど信頼できる人に相談すること。
 - 短い時間でも、少しは勉強できる時間が必要だと思います。
 - 遅れたり、休んでしまって、勉強が追いついてないときに、ちょっと教えてあげたりすることができると思います。
 - 地域の大人がその現状を知るの大切だと思う。
-

-
- 弟とか妹だったらベビーシッターを無料で雇えるようになればいいと思います。
 - 提出物の期間の延長（2件）
 - 難しいかもしれないけど、その人の家族をお世話してくれる人がいて、ちゃんと学校に行けて勉強できること。
 - 電話相談
 - 努力する。
 - ほかの人（ヤングケアラーではない人）のように、みんなと遊べたり、習い事に熱中できたりすること
 - 悩みがあったら聞いてあげたりする。
 - 悩みを聞いてあげたりすることが大切だと思います。
 - 悩み事を聞くこと。
 - 疲れている子どものために介護が必要な大人たちを預ける施設をつくる。
 - 疲れを取る時間。一人じゃなくてみんなの手伝いをする事。
 - 必要だと思うそれ以外思いつかない
 - 必要なことは、障害者じゃないひと助けてあげることです。
 - 必要なものの寄付、支援募金
 - 必要最低限以上の支援
 - 病院を近くに建設してあげる。
 - 病気がある家族の人に、自分で買い物をしたり、お手伝いをもっとしたいです。
 - 病気で苦しんでいる人に安全に暮らせるようになってほしい。
 - 病気とか熱になったりとかしたら看病が必要だと思いました。
 - 病気等であれば募金支援金などを募集すること。
 - 平等な教育を受けさせてあげること。
 - 平等にする何かが必要。
 - 便利グッズ
 - 勉強
 - 勉強しやすい環境
 - 募金（2件）
 - 募金をして、そのお金を家族のお世話している子どもにあげればいいと思います。
 - 褒めたらいいと思います。
 - 訪問介護の人とか、家族のお世話をしている子どもたちを手伝ってくれる人が必要だと思います。
 - 僕は、ヤングケアラーをしている子どもに一人じゃなくて他の人も少しは手伝ってあげればよいと思いました。

-
- 本人の話や気持ちに寄り添ったり、適切な支援につなげることが必要だと思う。
 - 無理のない範囲でお世話や介護をする。
 - 無理をしないでほしい。
 - 無理をしてお世話をしていると、その子がストレスなどで病気になってしまふかもしれないから、少し保護？みたいなのをしてあげてほしい。
 - 無理をせず、適度な休憩やボーっとしている時間を取ることも大事。
 - 無料でお手伝いさんと呼ぶ。ヤングケアラーの子が楽しめる場をつくる。
 - 優しさ
 - 優しい声かけ
 - 優しくする。
 - 優しく接すること。強く叱らない。
 - 友だちと遊ぶ時間が必要。たまには、子どもに休憩時間も必要だと思う。
 - 友だち
 - 友だちといっしょにいる。
 - 友だちと遊ぶ時間をつくる。
 - 友だちと遊んだり、好きなことをする時間をつくる（習い事など）。ちゃんと休む（よく眠る）。
 - 友だちなどが異変に気づき学校の先生や大人に知らせること。
 - 友だちなどと遊ぶことや、睡眠ができる環境。わけは自分の時間がないとストレスが溜まってしまふし子どもは子どもとして生活するべきだと思うから。
 - 友だちなどと遊ぶ時間や一人の時間。
 - 遊ぶ
 - 遊ぶ時間
 - 遊ぶ、休憩
 - 遊ぶ時間や休息
 - 遊ぶ時間や自由にできる時間や1人で集中する時間も大切、必要だと思います。
 - 遊ぶ時間をつくってあげる。
 - 幼い子どものお風呂。
 - 曜日ごとに家族と交代して、お世話をすると思います。
 - 両親からの支え・周りの人が気づく・きつかったら大人に話す
 - 周りに助けを求める。
 - 料理、洗濯
 - 料理
 - 洗濯
 - 話を聞いてあげること（2件）

-
-
- 話を聞いてあげたりする
 - 話をちゃんと聞いてあげて、寄り添うことや手伝うことが必要だと思います。
 - 例えば、しっかりその子どもたちの面倒を見たりしてしっかりお世話をすればいいと思います。

(2) 中学2年生

○家族のお世話をしている児童

- お金
- お金の支援、自由時間の提供、睡眠時間の確保、意思の尊重
- その人に必要な食事や生活の仕方などを理解すること。
- たまには自由時間、休憩
- だれかに頼ること。
- ヘルパーや管理してくれる人が必要。
- もし、金銭面で進学が厳しい状態だったら、お金を寄付したりしてその人の将来を大切にしたい。
- もっといろいろな人に相談。
- ヤングケアラーの人からではなく、周りの人から悩みを聞くこと。
- ヤングケアラーをしている人に自由時間をあげてほしい。
- 一人で無理しないで、困ったらほかの人を呼んできたり、相談すること。
- 一人の時間が大事。
- 応援
- 学業や金銭面での支援、心のケア。
- 経済面での援助
- 経済面に余裕をつくれるようになること。
- 子どもが悩んでないか見る。
- 支援をする。(2件)
- 時間
- 自治体などがしっかりと支援をし、ヤングケアラーをする人、される人に何かあったときの対応を国や市町村はもっと考えてほしい。
- 自分のために使える時間とお金、相談に乗ってくれる大人は必要になると思う。
- 助けてあげる。
- 助け合いが必要だと思う。
- 助け合う気持ち。
- 心の健康を確認する必要があると思います。

-
-
- 親と子どもを引き離し、子どもを保護する。
 - 相談できる人
 - 相談できる人がいると安心する。それを広めたりする。少しでも手伝えることがあったら手伝ってあげる。
 - 相談に乗ること。
 - 優しく世話をする。
 - 友だちと遊んだりする息抜きが必要だと思う。
 - 話を聞いてくれる大人が必要だと思う。

○その他の児童

- AED
- アドバイス
- ありきたりだと思いますが、大人がだれかの世話をできないときに子どもに頼るのでなく、専門の方々にお世話を依頼するよう、常にメディア（とくに CM）などで呼びかけるべきだと思います。また、金銭的に難しい家庭には支援が届く仕組みもつukらないといけないと思います。
- ある程度、記憶力が低下したりしたら必要だと思う。
- ある程度の休息。
- ある程度休む時間を設けること。
- 一人で抱え込むことが多いと思うから、学校の先生などの大人が相談に乗ってあげることが大切だと思う。
- いつもお世話をされていて自分のやることや自由時間などが少ないと思うから自分のやりたいことをできる時間が必要だと思います。
- いろいろな人がヤングケアラーのことを知る必要があると思います。
- オンライン授業
- お金（25件）
- お金、体
- お金、相談する場所
- お金、勉強、自由時間
- お金、頼れる大人
- お金、お世話してくれる施設
- お金と休む時間
- お金と自由
- お金と自由な時間
- お金などの支援（2件）
- お金などの補助
- お金の援助など
- お金の支援（3件）

-
- お金の支援、調査など、そのお世話をしている子どもにとって有利なこと。
 - お金の支援やその子どもがしなくてもいいようにすること。
 - お金の支援や学校に行くときに心配ないような世話係のような人がいたらいいと思う。
 - お金の補助
 - お金の補助。周りに理解してもらうこと。
 - お金や補助してくれる人。
 - お金やヤングケアラーの子どものかわりに面倒を見てくれるような介護士など。
 - お金や休む時間が必要だと思います。
 - お金や遊ぶ時間。
 - お金や頼れる大人か友だち。
 - お金を寄付したり、勉強ができる環境にしてあげること。
 - お金を寄付する。
 - お金を渡す制度があったほうがいいと思う。
 - お金を配ったり、周りが褒めてあげるとよいと思いました。
 - お仕事に効く。
 - お手伝いさん
 - お小遣い制にする。
 - お世話は大変だけど、自分の時間も大切にしてほしい。
 - お世話をしている子どもが勉強や部活動など、自分自身のために必要なことを自由にできているかをだれかが確認することが大切だと思う。
 - お世話をしている子どもがやりたいことをする自由な時間や支援が必要だと思う。
 - お世話をしている人の気持ちを聞いてあげたり、話したりしたらいいと思う。
 - お世話をしている人を介護施設に入れる。
 - お世話をしてくれている子どもを支援すること。
 - お世話をしてくれている人のお手伝いのボランティアをつくる。
 - お世話をしてくれる大人を施設に入れたり、人を雇うためのお金。
 - お世話をしてもらっている家族の介護、子どもの保護。
 - お世話をすることはとっても大切だと思うけど、自分の時間も確保したほうがいいと思う。
 - お世話をするための時間や道具。
 - お世話をするのに必要な資金や環境。
 - お世話をする人だけでなく周りも協力すること。
 - お世話を手伝うサポーター。
 - お世話を代わりにしてくれる人。(2件)

-
- がんばる
 - ケアリングやヤングケアラーの人同士で話し合うこと
 - ケアをしている人たちが将来を潰されることなく、しっかり報われる金銭援助、支援。みんなが幸せになれる環境を用意してあげること。
 - こういう自分のことについて話せる機会。
 - 子どもが自分のために時間を使えるように、子どもがヤングケアラーについて相談できるような環境づくりが必要だと思う。
 - ところ
 - 子どもと一緒にお世話をしてくれる人が必要だと思う。
 - 子どもの思いを素直に言える場所をつくること。子どもの勉学のサポート。
 - このような調査をしてヤングケアラーにあてはまった人に素早く対処したり、話を聞いたりすれば、その子のストレスの軽減になったりと思う。
 - これからも親の手伝いをする。
 - ご褒美（2件）
 - サポート
 - サポートしてくれる人がいたらいいと思う。
 - しっかりとそういうことを相談できる場所は必要なんじゃないかなと思いました。
 - しっかり休める時間。
 - ストレスや疲れをはきだすことができる場所が必要だと思う。
 - ストレスをなるべくかけさせないようにする。食事などの金銭的手助け。
 - ストレスを溜めさせないようにする。
 - ストレスを溜め込んでしまわないように施設へ入ってもらったり、お世話係さんなどを必要なときに雇ったりして、少しでも負担を軽減する。
 - すべてのヤングケアラーの人にお金を支援することが必要だと思います。
 - そういう家族のためのお金の補助。
 - そういう子どもたちが自由に遊べたり、休むことができる時間や場所が増えたり確保できればいい。
 - そういう施設の大人が手伝ってあげる。学校で悩み相談をしてあげる。
 - そういう人たちが生活できるような支援が必要。生活費、食費、補助金など。
 - そういう人たちは、介護や生活の面倒を見るのにいっぱいだと思うけれど、まだ学生なのであれば、しっかり勉強や運動など、自分がしたいことなどにも時間を取るべきだと思うので、何かしらその人たちに対しての特別な措置などは必要だと思う。
 - そういう人たちを受け入れる体制やヤングケアラーとは何かの講座。
 - そういう人の相談に乗ってあげること。

-
- そういう団体みたいなのをつくるのが必要だと思う。
 - そうゆう子が減ってほしいし、少しでも学校生活を楽しんでほしい。
 - そのお世話する子どもが少しでも自分のしたいことができるように支援する必要があると思いました。
 - そのお世話をしている家族を助ける人を雇うこと。
 - すべての人がヤングケアラーという言葉について、知っていて、周りの人がすぐに助けられる環境。
 - そのがんばっている子どもに対してひどいことを言うのはよくないと思う。障害を持っている人や親がいない人は世の中にたくさんいるから、その子どもを責めないであげてほしいと思う。
 - そのことは将来役に立つことだと思うので、これからもめげずにがんばってください。
 - そのような子どもたちが行けるような学校をつくる。
 - そのような大人のお世話をしてくれる施設など。
 - その家事と勉強を両立させられるよう、学校では真剣に授業を聞きノートにまとめるだけでも十分効果が期待できると思います。
 - その家庭への支援とかが必要。
 - その子が、頼りやすい環境を周りがつくること。
 - その子がいつでも頼れて、悩みを言えるような人がいること。
 - その子が休める場が必要だと思う。
 - その子が勉強する時間や友だちと遊ぶ時間など。一人の自由時間など。
 - その子が無理をしすぎないように、その子のための時間をつくる。
 - その子たちを支援することが必要だと思いました。
 - その子どもがほかの普通の子どもぐらい楽しく生活できるようにサポートする人が必要だと思う。
 - その子どもが普通の中学生のような学校生活を送れるように、手伝ってくれる人が必要。
 - その子どもが別にそれでいいと思っているのなら首を無駄に突っ込む必要はない。
 - その子どもが勉強をすることができる環境、話を聞いてくれる人、友だち、遊ぶことのできる環境。
 - その子どもが楽しく学校に来られるように温かく支えること。
 - その子どもに変わってお世話をしてくれる人やその子どものケアみたいなことをしてくれるカウンセラーが必要だと思う。
 - その子たちだけのクラスや学校、その子たちにあげるスマホやタブレット、その子たちにあげる費用などお金。
 - その人がいいなら、学校にいかなくてもいいようにする。支援したりする。無料でお世話を手伝ってあげられるようにする。

-
- その人が安定した勉強や娯楽の時間が取れること。
 - その人が休める時間があるとよいと思う。
 - その人が休んだり、好きなことに向き合えたりできる時間が必要だと思います。
 - その人が無理しないように助けてあげる。
 - その人にとっての手助けをする
 - その人にやってほしいことを頼まない。
 - その人に寄り添ってあげる。
 - その人に不安な気持ちがあったりしたときのための相談室。
 - その人のやってみたいこともやらせてあげること。
 - その人の意見を尊重すること。勝手にいろいろなものを押し付けても意味がないから。
 - その人の家族が家事をする。
 - その人の尊重。その人がやっていてきつくないか大人が聞く。
 - その人も無理もせずに、しっかり休んだりすることも大切だと思います。
 - その人たちが安心したりできる場所をつくる。また、彼ら（彼女ら）の不安や困っていることを相談したりできるようにする。ヤングケアラーたちの存在をもっとたくさんの人にしてもらえるようにする。
 - その人たちへの募金などの支援。
 - それが周りにも理解されるように周知していくべきだと思う。
 - それだけにとらわれず、自分の好きなことをしたほうがいいと思う。
 - それを受け入れて、自分たちにできることを考える。
 - それを代わりにしてくれる人が必要。
 - たくさん寝る。たくさんご飯を食べる。
 - たまには休むこと。
 - たまに休む。
 - どんな子でも、平等に同じような生活が送れるようにすること。
 - どんなときでも対応する適用力が必要だと思う。そして、つらいときは友だちや電話することが必要。
 - 何かきっかけになることをやらせてみる。
 - 何か役立つことの援助。
 - 悩みがあるなら相談できるような場を設ける。
 - バイトとかしても、お金が足りないと思うから補助金みたいなのが必要だと思う。
 - バリアフリー
 - 一人で無理せず、周りの人に相談してほしい。
 - ヘルパーの人の介護が受けられるようにする。

-
- まず、ヤングケアラーというものを多くの人に知ってもらって、どうするべきことなのかということをお人事ではなく自分事として考える必要があると思います。そして、ヤングケアラーの人に今できる支援をしていければよいと思います。
 - まず、ヤングケアラーという存在を知る。そして仲のよい人にヤングケアラーがいるかも知れないという配慮、思考をいつでも持つこと。ヤングケアラーの人に対しての否定的なことを思っていたとしても言わない。
 - まず、ヤングケアラーについて知られることが大事だと思う。そのためにSNSなど使えばいいと思う。
 - まだ学生なので学業がおろそかになるから、そういったことを相談できる窓口など。
 - 周りの人が助ける、理解する。
 - 周りの人の理解や手助けが必要だと思う。
 - 周りの理解
 - みんながヤングケアラーのことを知って、理解すること。
 - みんなが支えていければいいのだと思う。
 - みんなで協力しあうこと。
 - みんなの協力が大切。
 - メンタル
 - メンタルケア（2件）
 - メンタルケアやそれぞれにとって過ごしやすい環境。
 - メンタル的なサポートや家族のお世話のサポート。
 - もっと一人の時間や学校に行って学ぶ時間を増やしたほうがいいそれから、一人で悩まずに相談などもしてほしい。
 - もっと子どもに世話されている人がお金や人間関係のことを気にせずに頼れる場所をつくること。
 - やっぱり家族費やお金が大切だと思う。
 - やる気
 - ヤングケアラーだからといういじめなどが起きないように防ぐこと。
 - ヤングケアラーってことは朝から学校に行けていないと思うし、夜間学校とか増やしてあげてほしい。
 - ヤングケアラーでない子どもたちに、ヤングケアラーの大変さを知ってもらうこと。
 - ヤングケアラーではない私たちがその子どもたちの家族などについてつくづく聞いたりしないようにする。どうしても困っていそうであれば先生にそのことを伝える。この2つは大事かと思う。
 - ヤングケアラーで困っている人の家族のもとへ行き、代わりに「お世話」をしてあげる。

-
- ヤングケアラーでも楽しく過ごせる環境
 - ヤングケアラーで自分のことを後回しにしている人も多いと思います。だれかに相談したいと思っても、できない。そんな人が少しでも救われるように、もっとこれからヤングケアラーについての相談窓口が多くなればよいなと思います。
 - ヤングケアラーという言葉を広める、知ってもらう。ヤングケアラーのための何らかの活動（負担軽減、代わりにお世話をする人のサービス）をする。
 - ヤングケアラーという存在が自分だけではないことやそのような家庭を持っている子ども同士で話し合える場所があったらよいと思う
 - ヤングケアラーとっていじめられるのはよくないし、勉強も部活もできないのはよくないと思うので、学校の勉強面でのサポートやスクールカウンセラーのサポートが充実していることが必要だと思った。
 - ヤングケアラーなどが介護をするために、学業や趣味の時間を割いている現状があるので、福祉支援などの対策を進める。
 - ヤングケアラーなどを支援する制度とかあったらいいなと思います。
 - ヤングケアラーについての講演会とかを地域で開く。
 - ヤングケアラーについての理解。
 - ヤングケアラーについての理解することだと思う。その人自身がやりたくてやっているわけではない場合もあると思うので、人それぞれの事情があってどういった状況に置かれているのかやその人がどうしてほしいのかなどを理解して接することが大切だと思う。
 - ヤングケアラーについての理解を深め、自分の置かれている状況を理解する機会をつくる。
 - ヤングケアラーについて全員が理解する。寄り添う。ヤングケアラーの人たちの悩みを聞く。
 - ヤングケアラーについて知ってもらうことが必要だと思う。
 - ヤングケアラーについて知る。ヤングケアラーの人が相談できる環境をつくる。
 - ヤングケアラーについてわかってあげること、理解してあげること
 - ヤングケアラーには気力や体力もいるし、子どもがすべてをするということが何よりもきついと思う。
 - ヤングケアラーのことを手伝い、理解してくれる人が必要。
 - ヤングケアラーのことを理解すること。
 - ヤングケアラーのための施設をつくる。
 - ヤングケアラーのための相談窓口があってもいいと思う。または、ヤングケアラーの SOS を聞き逃さないようなもの。
 - ヤングケアラーのための勉強の塾。

-
- ヤングケアラーのどうしたらいいかわかる何かがあったらいいと思う
 - ヤングケアラーの子どもたちが、すぐに相談できるような環境づくりをしていくといいと思う。
 - ヤングケアラーの子どもたちがお金もなく生活保護も受けられないなら、お金が必要だと思います。
 - ヤングケアラーの子どものことをだれに聞いてもわかるくらいにしたほうが、今現在ヤングケアラーの子どもも過ごしやすいと思う。
 - ヤングケアラーの子どもを助ける大人を用意する。(家政婦のようなもの)
 - ヤングケアラーの子どもたちの心身に気遣って、そういった人たちの相談に乗ることや楽しいと感じられるような場所をつくってあげることが必要だと思います。
 - ヤングケアラーの実態や預けられる施設などを拡散することで、ヤングケアラーの人も大変さがわかってもらえるし、預けられる所をすることができるので、ヤングケアラーについて拡散するチラシやポスターがヤングケアラーに悩まされる子どもに必要だと思いました。
 - ヤングケアラーの人たちがちゃんと自分の時間をつくれればいいなと思いました。
 - ヤングケアラーの人たちが過ごしやすい環境をつくる必要だと思う。親の世話をしている人たちは、普通の人よりも毎日が大変で、生活が厳しかったりするから、そこの支援をすることが必要だと思う。
 - ヤングケアラーの人たちにどんなふうになればいいのかや道具の使い方、便利な道具の支給をすればいいと思う
 - ヤングケアラーの人に対する社会的な補助
 - ヤングケアラーの人に勉強や自由な時間を与えてあげたり、その家族への支給をしてあげたらいいと思いました。
 - ヤングケアラーの人のことを見つける。
 - ヤングケアラーの人のために相談の場を設け、その上で対処法を教えたり、一緒に介護等をしていくこと。
 - ヤングケアラーの人の気持ちを理解すること。県や国などが支援できるところはする。
 - ヤングケアラーの人の存在を知り、少しでも体や心の負担を減らすことが必要だと思います。
 - ヤングケアラーの人向けに学ぶ空間を別の時間につくる(放課後とか)
 - ヤングケアラーの人専用の相談室など。
 - ヤングケアラーの代わりになる人が必要だと思う。
 - ヤングケアラーは、学校に行けなかったり、自由に遊べなくなったりするので、他の大人を頼る必要があると思いました。
 - ヤングケアラーは子どものために必要なときもあると思う。

-
- ヤングケアラーの方々は、自分の好きなことをする時間が少ないと考えるので、給付金を出して、その家族を助けてあげたり、ヤングケアラー同士で交流の場を広げるのもいいと思います。
 - ヤングケアラーの方たちが気軽に相談できる場所。
 - ヤングケアラーの方専用の学校。
 - ヤングケアラーへの支援。
 - ヤングケアラーをカバーする。
 - ヤングケアラーをしている子どもが自宅で授業をできるようにオンラインを活用すること。
 - ヤングケアラーをしている子どもに何か具体的にはわからないけど、学校などの施設で援助が必要だと思う。
 - ヤングケアラーをしている人には何かしらのハンデを与えてあげなければ社会で生きていくことが困難であると考え
 - ヤングケアラーをすることによって一人の子どもの人生が狂う可能性があるがあるので、自分の気持ちに素直になってみてほしい。
 - ヤングケアラーをする際の道具が必要だと思う。
 - ヤングケアラーをやめて、まずは自分のことを考えること。
 - ヤングケアラーを支援してあげること。
 - ヤングケアラーを支援してほしい。
 - ヤングケアラー限定で介護の無料化など。
 - ヤングケアラー人に対しての相談窓口を設置したらいいと思う。
 - ヤングケアラー専用の無料の家事代行サービスみたいなものがあればいいと思う。
 - ユーモア
 - 寄り添う
 - 愛と勇気
 - 愛情。理由は、もし子どもができて親になっても、どんなふうに愛情を注げばいいかわからなくて、そのうち愛情を持たなくなってしまうから。
 - 安心して相談できる環境。
 - 安心して悩みを言える場所、友だち。
 - 安心できる家
 - 安心できる環境や気軽に相談できる親しい人。
 - 安定して教育を受けられる場、子どもが安心するような場所、定期的な休み。
 - 移動販売式の商店、お金
 - 衣・食・住のサポートをしたらいいと思う。
 - 一週間に一回そういう関係のボランティアの大人がその子の家に通ってあげたり、相談に乗ってあげたりする。

-
- 一時的な休息、余白。
 - 一緒にお世話をする人、その人(ヤングケアラー)を助けてあげられる人、自分のことをしたりする時間。
 - 一緒に家事を分担してくれる存在。
 - 一人でヤングケアラーのことを抱え込んでつらい気持ちの人もいると思うから、周りの支えがすごく必要だと思う。
 - 一人で全部抱え込まずにだれかに相談したほうがいいと思う。
 - 一人で不満を抱えないこと。
 - 一人で抱え込まないこと。だれかに相談すること。
 - 一人の時間
 - 一人の時間、趣味の時間、遊ぶ時間、やりたいことをする時間
 - 一度どれくらいヤングケアラーの家庭があるかを調べ、その家庭に対する援助金や父母が障害を持っている場合、障害者グループホームなどを紹介し、それに対する援助金などを送ったりすればいいと思う。
 - 影響力
 - 援助
 - 援助や支援、相談場。
 - 援助をしてあげること。
 - 援助金
 - 援助金、助ける人
 - 何かあったら、話を聞いてあげるようにする。
 - 何があってもお世話を続けられる志
 - 何が大変に思っているのかを相談に乗ってあげて、話を聞いてあげること。
 - 可愛そうだから補助金とかを政府が出してあげたりしたほうがいいと思う。
 - 可能なら施設に入れる。
 - 家からでも通信制で勉強ができる制度。
 - 家では家族のお世話が大変だから、学校などでみんなと話したり楽しんだりする必要があると思う。
 - 家のことばかり考えずに、自分の好きなことややってみたいこともするのが必要。
 - 家事サービスの案内を配る。
 - 家事スキル。
 - 家事などを代替してくれる人。
 - 家事のお手伝いをしていても、しっかりと勉強できる環境。
 - 家事の仕方の本
 - 家事やお世話をしなくていい時間。
 - 家事や介護を手伝ってくれる人。

-
- 家事代行サービスを使う。
 - 家政婦（2件）
 - 家政婦と資金援助。
 - 家政婦などの世話することが専門の人に頼むことが必要だと思う。
 - 家政婦を雇う。
 - 家族からの愛情や優しさ、気楽に休める環境。
 - 家族ではない、ほかの人も直接ではないが、協力すること。また、ヤングケアラーについて知ってもらうこと。
 - 家族のお世話している子どもも病気かかる可能性あるかもしれないから、そのために一人でも飲める薬が必要。
 - 家族のお世話でつきっきりになり友だちと遊ぶ時間などの中学生の今しかできないようなこがなくなならないような何らかの援助が必要だと思う。
 - 家族のお世話などをやってくれるところにおいて自分の時間を少しでも確保することが大切だと思う。また、一人で抱えてしまっている人もいれかも知れないから相談所なども設けたらいいと思う。
 - 家族のお世話をしていて、自分だけの時間が取れない場合は、少しの自由時間などは必要だと思う。
 - 家族のお世話をしていて子どものために何かサポートすればいいと思う。
 - 家族のお世話をしていて子どもの支援として、学校にいかせてあげられるように学校の間代わりにお世話をする。
 - 家族のお世話をしていて子ども専用の教育機関をつくってあげることが必要だと思います。
 - 家族のお世話をしていて子どもには給付金をあげたり、国が食べ物を無料で援助したりすることが必要だと思う。後は、子どもがお世話するのが大変だから介護職専門の人がお世話するべきだと思う。
 - 家族のお世話をしていて子どもを守ってくれたり、支援してくれたりする大人が必要だと思います。
 - 家族のお世話をしていて子どもたちにも頼れる人がいることが大切だと思う。
 - 家族のお世話をしやすい環境と勉強する時間などをもっと増やすことが必要だと思います。
 - 家族のお世話を手伝いに来てくれる人。
 - 家族のためにすることも大事だけど、自分の時間も大切にしてほしい。
 - 家族の介護の仕方の説明書。
 - 家族の世話をしていたりするから早退とか遅刻とかしても許されたいと思う。
 - 家族の世話をしてもちゃんと学校に行けるようにすること。

-
- 家族のためにお世話をするのは大切だし、しないといけないことだけど、自分の学校生活だったり、人間関係などを後回しにして楽しい日々を送れることも大切だと思う。大きい負担を抱えるんじゃなくて、いろいろな人と協力してお世話がすることが大切だと思う。
 - 家族の介助で忙しく学校に通えない人もいるかもしれないが、そういう人たちにも十分な教育が必要。また、人権も必要だと思う。
 - 家族の世話をしている子どもは、大切な時間をかなり奪われるから、家族の代わりに世話をしている子どもを一人でも見つけて、大人が無料で介護したりすればいいと思う。
 - 家族も家の家事を手伝う。
 - 家族や他人の人も大事だけど自分のことを優先する。
 - 家族を支えることができる。
 - 家族を介護して家事や勉強などを両立しているからこそ、疲れたからといってすべてを捨てないでがんばってほしいです。
 - 家族を思う気持ち、スタミナ、ストレス発散。
 - 家族を大切に思う気持ちを持つてすること。
 - 家庭への適切な金銭面の援助、子ども相談を積極的に行う。
 - 介護ができる環境や必要な道具を揃えられるといいなと思います。
 - 介護される人にヘルパーは必要だけど、介護している人にもヘルパーが必要だと思う。
 - 介護してくれる大人の人がいれば子どもはもっと楽に過ごせると思うから、介護してくれる大人の人。
 - 介護センターに無料で行ける。
 - 介護センターを増やす。子どものために代わりに支えてあげる人をつくる。
 - 介護についての相談ができる窓口などがあったらよいと思います。
 - 介護の補助などの支援を強化する。
 - 介護や看病をすること。
 - 介護施設に入れることだったり、支援したりすること。
 - 介護施設に入れる補助金を出す。
 - 介護施設の案内・手続きの仕方、金銭的な援助。
 - 介護施設や近所の助け合い。
 - 介護施設を増やす。障害者などでも行きやすいような施設をつくれればいい。税金などをこういうことに使えばいいと思う。
 - 介護施設をもうちょっと設ける。
 - 介護施設等の負担を減らす取り組みをしたらいいと思う。
 - 介助が必要な親がいるなら、そういう施設に入れるお金をあげる。
 - 介助の無料サービスが必要だと思う！電話相談だけじゃなくて、直接その子たちを助けるサービスが必要だと思う！

-
- 介助施設
 - 外部的な支援など。
 - 各家庭に訪問する。
 - 学びの機会をつくること。
 - 学業や習い事に集中できる時間。
 - 学校からの支援
 - 学校から出される課題などを減らし、家族をお世話する時間を優先させること。
 - 学校が生徒の状況を把握すること。
 - 学校では楽にさせてあげること。
 - 学校では心を休ませたり、落ち着かせたりする。
 - 学校によく遅れてきたり、欠席が多くてもその人の事情があるかもしれないから、悪いイメージを持たない。
 - 学校に行くために負担を軽減すること。
 - 学校に行っている間に介護をする人がいればいい。
 - 学校に支障が出るようなら、学校がその人と今どのような状況なのか話したらいいと思う。
 - 学校に通いながら家族のためにお世話をしている時間がないと思うから、少しでも体を休める時間が必要だと思う。
 - 学校に通いながら家族の世話をするのは大変だと思いました。
 - 学校のお便りなどで寄付を募集して、少しでも病気が治るように進めていく。
 - 学校の時間
 - 学校の授業を短くまとめた動画やノートをだれでも見られるようにする。
 - 学校の宿題をなくしてあげたり、提出物の期間を伸ばしてあげる。
 - 学校の配慮が必要だと思う。例、何かあったときの対応を考えておく。
 - 学校や行政機関の子どもへの支援（心のケア、補助金等）。
 - 学校生活で必要なものを用意する。
 - 学校生活などは自由に過ごせる環境になったらいいと思う。家族のことを気にしないといけないけど、家族のことばかり気にしてその子の自由が奪われるのは可愛そうだと思うから。
 - 学習が十分にできる環境、やりたいことが思うがままできる環境が必要だと思います。
 - 学習のための時間やだれかの助けが必要だと思う。
 - 学習の場
 - 学習環境
 - 学習環境の整備
 - 寛容な心
-

-
- 学費の補助や学業支援など、ヤングケアラーでも十分な生活ができるようにする必要があるのでないか。
 - 学費免除や学校側がその人の家の事情を知って、何かがあってもちゃんと対応することが必要だと思う。
 - 楽しいと思える時間を少しでも増やす。
 - 楽しく過ごせる場所。
 - 看病
 - 簡単なやり方の本や説明書的なものがあればいいと思う。
 - がんばる
 - 寄り添ってあげる。(2件)
 - 寄り添ってくれる人が必要だと思います。
 - 寄付
 - 気軽に雇えるお手伝いさん。
 - 気軽に相談できる、頼れる大人がいる環境をつくること。
 - 気遣い(2件)
 - 気合い(2件)
 - 気持ちに寄り添うこと。
 - 気付いた周りの子たちがもっと寄り添ってあげたりしてあげるとよいと思った。ご家族や親戚の方々がもっと子どものことを見てあげて協力し合おうとすればいいと思った。
 - 休ませてあげること。
 - 休み(4件)
 - 休むことも大切だと思う。ほかの頼れる人に頼る。
 - 休むことや自由時間。
 - 休む時間
 - 休む時間をつくる。
 - 休む日も必要だと思うし、つらかったら周りの大人に相談するべき。
 - 休める時間
 - 休暇
 - 休暇、息抜き、自由
 - 休憩(6件)
 - 休憩や体を休めること
 - 休息、生きがい
 - 休養
 - 休日などに、お世話をしている家族を子どもの代わりに、そのような仕事の人にお世話をしてもらう必要があると思います。
 - 給付金(2件)
 - 協力(2件)

-
- 教師がその子をヤングケアラーだと気づき相談に乗ってあげる。
 - 近所からの助け。
 - 金の支援
 - 金銭を渡すこと。
 - 金銭的にも厳しいご家庭が多いと思うから税金を使って支援をしたり、介護士を派遣してあげるべき。
 - 金銭的支援やお世話をするのに役立つことなどを伝える。
 - 金銭面での支援
 - 金銭面とか体力面で余裕がない人たちのための支援。
 - 苦しくなってしまったときは、だれか親しみのある人（大人）に相談してみることも大切だと思う。
 - 兄弟がいる場合は協力して世話したほうが一人ひとりにかかる負担は少ないと思いました。
 - 兄弟と協力すること。
 - 個人の学業にも専念できるよう支援。
 - 娯楽や楽しいこと。または、ヤングケアラーするにおいて、楽にするためのもの。
 - 公共機関からの支援。
 - 口ばかりではなく責任を持って行動すること。
 - 好きなことをする時間。（2件）
 - 好きなときに休む時間が必要。
 - 国がお金などを補助すること。
 - 国からの援助金や精神的にも肉体的にも支えられる要因になる取り組みが必要だと思う。
 - 国からの支援と相談場所、休息。
 - 国が専門的な大人を回し、直接手伝う。
 - 国の介護体勢などを見直し、ヤングケアラーの負担を少しでも減らすこと。
 - 国の支援
 - 国や県が無償で介護を受けられるようにする。
 - 国や自治体の支援。そういう人を預けることができる施設。家事をしてくれる人を定期的に来てくれるようにする。
 - 国や地域からの支援。
 - 困ったとき、だれか大人に相談すること。
 - 子どもたちが家族の世話をしていたら、その分ほかの人より不利になってしまうため、助けてあげることが必要だと思う。
 - 子どもたちは学校に行く権利があると思うから、子どもたちは学校に行って、ほかの近くの大人の人に手伝ってもらったらいいと思う。
 - 子どもたちを休憩させる時間。

-
- 子どもがケアする必要はないので、そのケアを自治体がすべきだ。
 - 子どもが自由な時間を得るための制度。
 - 子どもが自由にのびのびと生活できる環境を与えることが必要だと思う。
 - 子どもが世話をするのではなく、別の人ができるべき。大人が自分でしたり、別の人ができるべき。
 - 子どもが働かなくていいように、老人ホームなどをもっと増やす。
 - 子どもでも気軽に頼れる、使える制度や機関。
 - 子どもにあまり負担をかけないためにも専門の人を雇うなどすればいいと思う。
 - 子どもに寄り添う社会のシステムが必要。
 - 子どもに支援したりしたらいいと思う。
 - 子どものしていることを代わりにする大人。子どもの時間。
 - 子どものメンタルケアや助けが必要だと思います。
 - 子どもの考えや意見を尊重する。
 - 子どもの代わりにお世話をするボランティア活動を行う。
 - 子どもの補助をしてあげたりすること。もし、ヤングケアラーで満足に生活していない子どもがいたら、手助けすること。
 - 子どもの面倒は大人が見なくてはいけないので、子どもに世話をさせるのはおかしいと思う。
 - 子どもらしい生活ができたり、心の余裕が持てるように助けることや理解し合うこと。
 - 子どもらしくいられる時間が必要だと思う。
 - 子ども以外で世話をする人を見つけること。
 - 子ども一人だけでできる物を開発すること。
 - 市や、国から介護の人を雇うお金をあげることが必要だと思う。
 - 市や県からの補助。
 - 思いやり（2件）
 - 思いやりを持つこと。
 - 思いやりを持って相手に接することが大切だと思う。
 - 支援（13件）
 - 支援、協力する大人、相談に乗ってくれる周りの人。
 - 支援してあげる（2件）
 - 支援してくれる人。思っていることをちゃんとと言える人。
 - 支援する。募金。
 - 支援するために募金をして少しでも応援していることを伝えるべきだと思う。直接は会うことができないから、寄付金として募金をしていくべきだと思う。
 - 支援などの周りや国からの手助け。
-

-
- 支援やボランティア、自分の自由時間も必要だと思う。
 - 支援やヤングケアラーの認知度を高める。
 - 支援や気軽に相談できる場所。
 - 支援をしてあげる。(お金、家電など)
 - 支援をする。
 - 支援員などを派遣するべき。
 - 支援金(3件)
 - 支援金など、国が支援を行う。
 - 支援金を送る。先生など周りの大人が寄り添ってあげる。
 - 支援物資
 - 施設に入れる。
 - 施設を増やす。
 - 施設入所の手伝いや子どもに自分のための時間をつくってあげること。
 - 私が言えることではないが、何かつらいことがあったりして助けがほしかったら、勇気を出して「助けて」といえばいいと思う。
 - その人のことを理解することが一番大切だと思う。
 - ヤングケアラーではないので、普段どのような生活をしていて、どのような悩みがあるのかなどは知らないけれど、身の回りにそのような人がいたら、できるかぎりのことはしてあげたい。
 - 資金援助
 - 資金援助、カウンセリング、家事の手伝い
 - 資金的な支援などの制度。
 - 児童相談所
 - 児童相談所に相談。
 - 児童保護施設などで預かってもらえるなら、保護してもらったほうが生活しやすいと思うけれど、できない事情がある場合は、生活用品やお金の支援をしてくれるとうれしいと思う。
 - 時間(6件)
 - 時間、自由、知識
 - 時間、自由(2件)
 - 時間とかの配分。
 - 時間の確保。
 - 自分がしたいことを十分にできる環境にすること。
 - 自分がヤングケアラーかどうかわかっていない人もいると思うので、しっかり確かめたほうがいいと思った。
 - 自分が大変だったときは、ほかの親戚などに応援(手伝い)をもらう。
 - 自分だけの時間。
 - 自分たちができることをする。

-
- 自分たちができる限り家事をする。
 - 自分で自分がヤングケアラーだと気づいていない人にまず「気付かせてあげること」が大事だと思う。
 - 自分で抱え込むことなく、日常で頼れる大人がそばにいること。
 - 自分のことにも時間を使わせてあげたい。
 - 自分のことを大切にして、お世話の必要な家族に優しく接する。
 - 自分のしたいことをする時間。
 - 自分のために使う時間。自分が本当にやりたいことができているのか。
 - 自分のために使う時間を確保するために友だちや近所の人たちが協力して助けてあげること
 - 自分のために使える時間。
 - 自分のために使える時間が少ないと思うから、適度に休みを入れたほうがいい。
 - 自分のやりたいことをできる時間やお金が必要だと思う。
 - 自分のための時間があまりないと思うから、自分の時間が必要だと思う。
 - 自分の気持ちを素直に言うこと。
 - 自分の好きなこと、したいことをできる環境にしてあげる。相談を聞く。
 - 自分の好きなことをする環境も必要だと思う。
 - 自分の時間（16件）
 - 自分の時間と趣味の時間、相談相手とお金。
 - 自分の時間の確保。
 - 自分の時間もつくってほしいから、家族のお世話を手伝ってくれる人。
 - 自分の時間も必要だから、介護施設の人が実際に家まで行ったらいいと思う。
 - 自分の時間をあげる。
 - 自分の時間をつくること。（2件）
 - 自分の時間をきちんとつくること。
 - 自分の時間をつくることが必要だと思う。
 - 自分の時間をもっと大切に使ったほうがいい。
 - 自分の時間を確保する。
 - 自分の時間を削って家族の代わりに生活を手伝うことはとてもいいことだと思うけど、時には自分自身の休みも必要だと思うし、遊んだりしてストレスをなくすような行動もいいと思います。
 - 自分の時間を削りすぎないこと。自分一人だけでやらないこと。
 - 自分の時間を大切にするのは大切だと思う。
 - 自分の状況をわかってくれる人がいる環境。
 - 自分の頼れる人を見つける。
 - 自分一人で抱え込むのではなく、他人に相談することも必要だと思う。

-
- 自分はヤングケアラーという言葉を知ることがなかったけど、日本には、家族を世話している人がいるという事実を知ることができてよかった。
 - 自分一人で抱え込むのではなく、他人に相談することも必要だと思う。
 - 自分時間がつくれる場所。
 - 自由（10件）
 - 自由、お金、頼れる人
 - 自由、お金
 - 自由な環境
 - 自由な時間（12件）
 - 自由な時間、ヘルパー
 - 自由な時間や休む時間が必要だと思う。
 - 自由な時間を取らせてあげる。
 - 自由にのびのびとしたいことができる場所。
 - 自由に解放される時間が必要だと思う。
 - 自由に学校に行ったりすることができる時間が必要だなと思いました。
 - 自由に相談できる場所が必要。
 - 自由に相談できる環境をつくったらいいと思う。ヤングケアラーの家の子どもがそれをあたり前と思っていることを見直したほうがいいと思う。補助金。日本の教育機関への進学をお金とかに困らないようにしてほしい。
 - 自由な時間、休む時間
 - 実力
 - 手軽に頼ることができる生活を手伝ってくれる人。
 - 手助け
 - 手伝い
 - 手伝いをする。
 - 手伝い、文句を言わない、マッサージ
 - 手伝ってくれる人（3件）
 - 手伝ってくれる人を呼ぶ。
 - 手伝ってくれる人を派遣する。
 - 周りがそのことについて知る。
 - 周りがその人の相談に乗ってあげたり、困っていることがあったらできる限り助けてあげたりする。周りの大人にも悩みを相談する。
 - 周りに相談できるような環境づくり。
 - 周りの協力と行政の支援。その子どもたちも他の子どもたちと同じように勉強できる機会。
 - 周りの人がしっかり見る。
 - 周りの人がその子に気づいてあげること、余裕があれば、その子の助けになってあげることだと思います。

-
- 周りの人がその事実に気づき、なおかつヤングケアラーの子をサポートできる環境にすること。何より、周りの人がその事実を認識していることが重要だと思う。(最も重要であり最も難しいことだとは思いますが。)
 - 周りの人が気づいて助けてあげること。
 - 周りの人が手伝う。国が援助する。
 - 周りの人が助けてあげる。
 - 周りの人たちが協力できるような環境。
 - 周りの人たちに手伝ってもらうこと。休む時間をつくること。
 - 周りの人に相談してみる。
 - 周りの人のサポート (3件)
 - 周りの人のヤングケアラーの人に対する理解。
 - 周りの人の定期的なカウンセリング、また、経済的な面の国からの補助なども必要だと思う。周りの人のように、楽しく学校などの生活を送れるような環境づくりを率先して行っていくべきだと思う。
 - 周りの人も協力をしてあげる。
 - 周りの大人がその子どものことを理解してあげて、困っているときは寄り添ってあげたほうがいいと思う。
 - 周りの大人が家事などを協力して、学校生活に影響が出ない程度のお世話をしたらいいと思った。
 - 周りの大人が代わりに世話をし、その子どもたちが学習などを充実してできるようにする。
 - 周りの大人が配慮したり、少しでも何か手伝ってあげる。
 - 周りを見て困っていたら助けたり、手助けをする能力は必要である。
 - 周囲の理解
 - 周囲の理解と気付き
 - 十分な休憩
 - 十分な教育
 - 十分な自由時間や学習時間を与えて、みんなと平等な生活を送れるような制度をつくってあげる。
 - 十分な食事、教育など。過ごしやすい環境、相談できる人。
 - 宿題や課題を減らす。
 - 宿題を減らす。
 - 初めて聞いた言葉だったから、もっとヤングケアラーについて理解を深める活動を行うこと。
 - 助けてあげたり、負担を減らすこと。
 - 助けてあげる。(2件)
 - 助けてあげるためのお金、人の手
 - 助けてあげられることを助けてあげる。

-
- 助けてと言われたら助けられる環境。
 - 助ける
 - 助ける人
 - 助ける人がいたらいいと思う。
 - 助けを言い出しやすい環境にする。
 - 助け合う、支える、相談に乗る
 - 助け合う
 - 助け合うことが大切だと思う。
 - 助成金？みたいなものを出したり、ヤングケアラー経験者からのお話を聞いたりする。介護施設の費用を国や地区から出す。
 - 少しでも学校生活に響かないような支援がいると思う。
 - 少しでも楽にしてもらいように手伝う。
 - 少しでも子どもが楽できるような環境。
 - 少しでも自由に自分のペースで休めるところや安らぎがあるところが必要だと思います。授業がちゃんと受けられるところが必要だと思います。
 - 少しでも手伝えることがあれば手伝いたい。
 - 少し休ませてあげたり、自分の好きなことをさせてあげたらいいと思う。
 - いろいろな人に頼ってもいいと思います。
 - 食べ物
 - 食事や衣類に困らないように、協力できることを一緒にする。
 - 食事を宅配などで届けてあげる。
 - 食洗機
 - 食物の提供
 - 寝る時間があることです。
 - 心のケア。精神的に疲れないように、心の内を打ち明けることができる人をつくる。
 - 心のケアが必要。
 - 心の拠り所をつくる。
 - 心や実際の家族のケアの支援が必要。
 - 心を休める時間をつくること。
 - 心を休める場所。
 - 心身のケア
 - 親がもっと親としての責任を果たす。
 - 親が義務を全うする。
 - 親が働けない状況にあったら、お金などの支援をしたらいいと思う。
 - 親と一緒に過ごす時間。
 - 親と過ごす時間もあれば、子どものストレスや負担が少し楽になると思う。
 - 親に警察が注意する。

-
- 親の愛情。友だちといい子ども時代を過ごすこと。自分のことに一生懸命になれること。
 - 親や家族以外の大人の補助が必要。
 - 親族などの大人の助けが必要だと思います。
 - 身近なところで寄り添う。
 - 身近な人が理解し、助け合ったりする。
 - 身近な人への相談。
 - 身近に相談ごとをできる大人がいる。
 - つらいときに話せる人。
 - 人と接する。
 - 人に頼ること（一人で抱え込んでいる人が多いイメージだから）。
 - 人のために自分の時間を少しでも削って、自らやる必要があると思いました。
 - 人の気持ちを考える。
 - 人付き合い。だれかに頼る。
 - 睡眠（2件）
 - 睡眠の時間をあげる。
 - 睡眠をよく取って、疲れを癒す。
 - 睡眠時間をちゃんととってほしい。
 - 世話をしてくれる人（2件）
 - 世話をされている家族を国の税金で施設に入れる。
 - 世話をしている子どもがほかの子と遊んだり、お世話されること。
 - 世話をしてくれる人を家においてあげる。
 - 世話を一緒にしてくれる人。
 - 政府から寄付金を給付する。
 - 政府が税金などで支援金を送ったり、ほかの家族が助けたりする必要がある。
 - 政府とかがお金を渡すとか。
 - 生活が楽になる制度。
 - 生活の補助金だったり、そういったサービス施設に送る費用の負担などがあれば、親子楽しく暮らせそうです。
 - 生活保護
 - 精神的に支える。
 - 税金などを使って、ヤングケアラーをなくすための仕事をつくり、家に訪問したり、逆に施設をつくり訪問させたりする。
 - 責任を感じさせないこと。
 - 責任感を持つ。
 - 先生など信頼できる人に自由に相談できるようにする。

-
- 全部家族だけじゃなくて自分のことも考えること。
 - 相手のことを想う。
 - 相手の気持ちになってお世話をする事。
 - 相手の気持ちを考えて接することで、自分も相手もいい気持ちになるから。
 - 相手の立場に立つ。
 - 相手を思いやること。
 - 相談（2件）
 - 相談、手伝う
 - 相談ができる相手、友だち（相談機関）
 - 相談しやすい人
 - 相談する。
 - 相談する環境をつくってあげる。
 - 相談できる場所（4件）
 - 相談できる場所、同じような環境で介抱している人との意見交流、生活支援、募金。
 - 相談できる場所（人）、心の拠り所、周りも気にしたり、ヤングケアラーについて知ること。
 - 相談できる場所をつくる。休むときをつくる。
 - 相談できる場所をつくる。でも、なかなか相談できないと思うから、アンケートみたいなのを定期的にする。困ってそうだったら、話しかけてみる。
 - 相談できる場所を設けること。
 - 相談できる人が一人でも多くいることや周りが理解すること、心や体を休める時間や自分がしたいことをする時間が必要だと思う。
 - 相談に乗る
 - 相談をすることができる人。
 - 相談相手
 - 相談相手、頼れる存在
 - 相談相手（自分のことを一番理解している人）。代わりに家族のお世話をしてくれる人。お金。
 - 息抜き
 - 息抜きできることなど、その子どもの好きなことをする時間が必要だと思う。
 - 続けられる気持ち。
 - お世話する機関や施設。睡眠時間などの個人の時間が必要だと思いました。
 - ほかの近所の人や親戚、友だちなどの手助けが必要だと思う。その家族を支える人やサービスなどが必要だと思っている。
 - ほかの子どもたちと同じように、自分の自由に使える時間を確保することだと思っています。

-
- ほかに人に手伝ってもらおうとか。
 - ほかに人に頼る。自分がやりたいことをする。
 - ほかに人も頼ればいいと思います。
 - ほかに人よりも少し甘く見ること。
 - 他人のことだと思わず、みんなで助け合うことが大切だと思う。
 - 体調管理
 - 体力（2件）
 - 代わりにお世話してくれる大人の人。
 - 代わりに世話をしてくれる人を派遣する。
 - 大人がもっと助けてあげるべき。子どもはまだ大人じゃないからできることが決まっている。
 - 大人などに事情を伝える。
 - 大人の支援、心のサポート
 - 大人の助け（3件）
 - 大人の人の支援。
 - 大変さを理解すること。
 - 大変だなんて思う。家の近くに祖父母もいるから安心だけど、そんな人もいるんだなんて思う。
 - 大変なことも多いと思うし、悩んでいる人も多いと思うので、相談できる人が必要だと思う。
 - だれかに気軽に相談できる場所や雰囲気をつくる。
 - だれかに相談
 - だれかに相談できる場所
 - だれかを頼ること
 - だれか相談できる人をみつけておく。
 - 知ること。
 - 地域にいる送迎のボランティアさんとかに相談できるようになればいいと思う。
 - 地域全体でのサポート、また、認識の共有など。
 - 地方自治体や国が支援金等を出す必要があると思う。
 - 遅刻や宿題の提出日が間に合わなかったとしても、甘めに見てあげる。
 - 昼以外でも登校して勉強できる定時制学校。
 - 調べる
 - 直接的な支援やお金などの支援。
 - 定期的な子どものケア（アンケートやカウンセラーなど）、補助金、近所の方の手助け
 - 適切な支援、ヤングケアラーが気軽に相談、休憩できるような環境。
 - 適度な休憩。ボランティアなどの人を増やす。

-
- 適度に休むこと。
 - 努力
 - 当事者によると思う。当事者ではない私たちが決めつけたりするのは、場合によっては失礼にあたると思う。ただ、強いて言うなら、「理解」、これは必要だと考える。
 - 働きすぎず、たまには息抜きをすることも大事だということ。
 - 道徳の授業などでそういう人がいることを伝える。
 - 特別支援学級
 - 悩みなどを共有する場
 - 悩みを相談すること
 - 悩みを相談できる場所
 - 悩みを抱え込まないこと。
 - 疲れたときはきちんと休む時間を取ること、何か困ったことがあれば相談できる大人の人をつくること。
 - 疲れたら、無理せずに休む。
 - 必要だと思う。
 - 必要だと思うことは、自分との時間や友だちとの時間だと思う。たくさん自分のやりたいことや友だちと遊ぶこと。
 - 不安などを溜め込まずに周りの人に話すこと。
 - 普段の世話で疲れていると思うから、その子に自由な時間をつくってあげたらいいと思う。
 - 不自由のない生活をする事ができるような援助をすること。
 - 普段の生活や学校生活で無理して明るくしていたりとかあるならば、話してほしいし話す勇気が必要だと思う。
 - 普段忙しいはずなので、課題をやらうとしても終わらなかった場合は見逃してあげる。
 - 普通、経験しないことだから、慣れるまでその子のサポートをしてあげることが必要だと思います。
 - 普通の学校とは違うヤングケアラーをしている子どもたちのための学校。
 - 普通の子どもよりも自由な時間が少ないと思うので、自由な時間が必要だと思う。
 - 部活動などをしている人は時間がないと思う。
 - 分かち合うこと。
 - 勉強、遊びなどの自由時間
 - 勉強しやすい環境をつくる。リモートで授業を受けられるようにする。
 - 勉強する時間
 - 勉強する時間、遊ぶ時間
 - 勉強する時間や一人の時間も必要だと思います。

-
- 勉強できる時間、場所をつくる。息抜きできる時間、場所をつくる。
 - 勉強などの保証
 - 勉強に集中する時間
 - 勉強のサポートなど。
 - 勉強や部活動に好きなように参加ができるような環境をつくってあげる
こと。
 - 勉強や遊ぶ時間。
 - 勉強や遊べるような時間が必要だと思います。子どもだけに負担をかけさせない
ようにする。
 - 勉強をするところや時間が必要だと思います。
 - 勉強を教えたりする。お金の支援。
 - 保育士を目指す人が入る学校や介護職を目指す人が入る学校に預けられる
スペースをつくれれば生徒もいい経験ができると思うし、家族も安心して
預けられると思う。
 - 保護施設などへ行く。
 - 補助員などを出せばいい。
 - 補助金（8件）
 - 補助金、学校との連絡手段
 - 補助金と支援金。児童相談所に相談を促す。
 - 補助金を出してあげたりする。
 - 補助金を出すこと。スクーリングしなくても学べる環境をつくること。
 - 募金（5件）
 - 募金。ヤングケアラーの人の声を聴く。
 - 募金、手伝い。
 - 募金などで治療費を集める。ヤングケアラーという存在をもっと広める。
 - 募金や環境への配慮を忘れない。ヤングケラーを思いやり、行動すること。
 - 母性と優しさ。
 - 褒めてあげること。
 - 今回初めてヤングケアラーという言葉を知ったのでよくわからないけど、
ヤングケアラーをいろいろな人に知ってもらって、大変な思いをしている
ことをみんなが理解していけばいいと思いました。
 - 無償でお世話を手伝ってくれる大人の存在。
 - 無償でそういう子どもを助けるシステムがいると思う。
 - 無理させない。
 - 無理せずに、もうつらいと思ったら周りの大人の人や友だちに相談する。
 - 無理せず、自分の体調管理もしっかりとする。自分で自分を追い込まない
ようにする。
 - 無理はしない。（2件）

-
- 無理をしないようにするための環境。
 - 無理をせず、たまには休憩を取ることも必要。
 - 無理をせずに、限界が来たらしっかり相談してほしい。
 - 無理をせず、まずは自分の健康を大事にすること。
 - 無料でお金を寄付。
 - 無料で、塾など、子どもが落ち着いて勉強を行える環境をつくったり、お世話をしてくれるボランティアをつくったりすればよいと考える。
 - 無料の介護やボランティアなど。
 - 無料家政婦、寄付金、学校側からも支援する。
 - 無料相談所をつくる。
 - 優しい気持ち（3件）
 - 優しく接する（4件）
 - 友だちと過ごす時間を大切にしたらいいと思う。
 - 友だちと遊ぶ時間
 - 友だちと遊んだり、好きなことをしたりする息抜きが必要だと思う。
 - 友だちとの関わり（遊び）。人の家に遊びに行く楽しさ。
 - 友だちと過ごす時間。
 - 友だちと自由に遊ぶことができる時間。
 - 友だちと遊ぶこと。（2件）
 - 友だちと遊ぶ時間。好きなことする時間。勉強する時間。
 - 友だちなどと遊べる時間をつくってあげたらいい。
 - 友だちや先生などに相談する。
 - 遊ぶ時間、自分のための時間
 - 遊ぶ時間がないので、周りの人（お隣さんや地域の人など）が助け合うことが大切だと思う。募金などを行い、家族の世話をしている人の手助けになることをすることも大切だと思う。
 - 遊ぶ時間や自由な時間。
 - 頼れる機関があることを伝える。
 - 頼れる場所をつくってあげる。
 - 頼れる人。
 - 頼れる相手。
 - 理解し合うこと。
 - 立派だと思いました。
 - 老人ホーム
 - 老人ホーム、保育園
 - 話を聞いてあげること。
 - 話を親身になって聞いてあげること。
 - 話を聞いてあげられる人
 - 話を聞いてくれる人

令和7年度 ヤングケアラー実態調査報告書

発行年月 令和8年3月

発行 金沢市
こども相談センター（児童相談所）
〒921-8171 金沢市富樫3丁目10番1号
TEL 076-243-4158 FAX 076-243-1123
